

2020年度 事業報告書

Purpose

人々の豊かな生活、地域社会、

そして日本を支える「福祉」

私達は「誇り」を持って、

日本の福祉を「創造」し、

「挑戦」します。

社会福祉法人 北海道ハピニス

【目次】

法人総括	2頁 ～ 10頁
1. 法人事務局	10頁 ～ 17頁
2. 障がい者支援施設グリーンハイム	18頁 ～ 27頁
3. 特別養護老人ホーム 和幸園	28頁 ～ 37頁
4. 看護係	38頁 ～ 39頁
5. 栄養係	40頁 ～ 42頁
6. 訓練	43頁 ～ 45頁
7. 相談支援事業所グリーンハイム	46頁 ～ 50頁
8. 通所事業部	51頁
9. 和幸園デイサービスセンター	51頁 ～ 55頁
10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森	56頁 ～ 60頁
11. 和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森	61頁 ～ 64頁
12. 生活介護事業所グリーンハイム (日中一時支援事業所グリーンハイム)	65頁 ～ 70頁
13. 地域事業部	71頁
14. 和幸園指定居宅介護支援事業所	72頁 ～ 76頁
15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所	77頁 ～ 80頁
16. 介護予防センター石山・芸術の森	81頁 ～ 88頁

1. 総括

《はじめに》

2019年末に始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大（パンデミック）により、世界各国多数の方がご逝去されました。ここにご冥福をお祈り致します。

この感染拡大による日本国内での非常事態宣言、北海道・札幌市緊急共同宣言、小中学校等の休校など、当法人各施設・事業所の運営を継続していくには非常に強い逆風の中、社会福祉事業を運営する法人の職員として、また専門職として高い意識と信念をもって、ご利用者の生活を支援し続ける職員一人ひとりを誇りに思っております。また、ご利用者、ご家族等の皆様にも、ご理解とご協力をいただき、心より感謝しております。法人内においては、この1年間で4名の職員が新型コロナウイルスに感染しましたが、ご利用者や他職員への感染はなく、施設内・事業所内への感染拡大に及ぶことなく収束することができており、感染者となった職員も無事に職場復帰しております。各施設・事業所については、年間を通して一部の事業所で2日間事業休止したのみで、感染対策を徹底した上で運営を継続することができました。

この新型コロナウイルスとの闘いは、2021年度も続きます。新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が少しずつ進んできておりますが、未だ新型コロナウイルス感染拡大は止まることなく、施設ご利用者には不便な生活を継続していただいております。2021年度は、少しでもこれまでの生活を取り戻せるように新型コロナウイルスとの共存も視野に新様式での環境整備に取り組んでいきたいと考えております。

この新型コロナウイルスとの闘いが長期化する今、全ての国民が被災者という意識を持ち、ご利用者と職員、地域住民、関係機関の皆様と手を携え、歩んでいくことが必要です。何卒、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

《経営・運営状況》

2020年度は、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に対し、施設・事業所内でのクラスターを発生させないことを基本方針として、基本的な感染対策の徹底と感染対策備品の確保の他、「新型コロナウイルス対策会議（全24回）」や感染者が発生した際の「新型コロナウイルス対策本部会議（全6回）」の運営、職員への新型コロナウイルスに関する情報提供、注意喚起を目的としたインフォメーション（全51回）、法人独自のPCR検査（スクリーニング検査）等を実施し、新型コロナウイルスの感染者を発生させないための対策を実践すると同時に、感染者の早期発見と感染拡大防止のための施策を推進した。また、法人全職員に対し、慰労と感謝を示すことを目的とした「Hero's ボーナス」の支給（全2回）や新型コロナウイルス感染者となったご利用者や濃厚接触者となったご利用者へのケアに携わる職員への特別危険手当の支給等、新型コロナウイルス対策事業として法人独自の施策を実施した。新型コロナウイルスからご利用者と職員を守るために、法人と職員が一丸となり感染対策を進めることができた。

法人経営・運営としては、法・制度に基づいた透明性の高い運営と過去にとらわれない柔軟な運営を基本とした法人組織体制（施設長・課長・係長体制）の構築により、役職員と職員との距離が縮まり、コンパクト且つ機動力の高い組織の運営を推進し、法人の方針、理事会等での決定事項や各種規程の改正等、様々な情報が正確に職員へ伝わるとともに職員からの情報収集も円滑となったことで、迅速な経営・運営状況の把握と施策の展開が可能となった。

また、2019年度より永年勤続表彰の表彰期間を縮め、従来の10年、20年、30年表彰に3年、

5年表彰を追加し、法人としてより多くの職員への感謝の意を示す機会を設けたことや介護職員等処遇改善加算、特定処遇改善加算による報酬額を超えた賃金・待遇改善にも継続して取り組んできた。さらに、2020年度からは、パート職員への賞与及び各種手当の支給を可能とする給与規程の改正を行うなど、正規、非正規によらない職員の働きやすさ、待遇改善に向けた具体的な施策を実現することができた。これらは、法人全職員が自信と誇りを持ち、法人の職員として活躍してもらうための施策であり、今後の職員の定着率向上に寄与するものと考えている。

経営実績としては、各施設の入居及びショートステイサービスでは、高い稼働率を維持することができており、法人全体の経営の安定化に大きく貢献することとなった。また、地域事業部については、特に和幸園指定居宅介護支援事業所の実績向上が著しく、年間を通じて法人各事業所の運営に良い影響をもたらすこととなった。ホームヘルプサービス事業所については、介護保険サービス、障害福祉サービスともに職員体制の縮小に伴う利用実績の低下と新型コロナウイルスの影響による実績の低下はみられたが、事業所規模に合わせた経営を進め、当期資金収支差額としては黒字での経営を継続することができた。介護予防センターについては、新型コロナウイルスの影響により1年を通じて活動を縮小する結果となったが、札幌市委託事業として札幌市の方針に基づき、各地域において可能な限り事業を継続した。

次に、通所事業部については、4月から5月、11月から1月の札幌市内での新型コロナウイルス感染者の増加に伴い、各事業所において実績が低下する期間はあったが、和幸園デイサービスセンターについては、2019年度下半期より実績が向上傾向にあり、1日の平均利用者数が前年度比で2.97名増加、和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森は、前年度と同水準の実績を維持、和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森、生活介護事業所グリーンハイムについては、1日の平均利用者数が前年度比で0.96名から0.79名の減に止めることができた。4事業所ともに新型コロナウイルスの影響による厳しい経営・運営状況の中で、通年では安定的に高い実績を維持することができた。

法人全体としては、新型コロナウイルスの影響による減収や各種経費の増加はあるが、補助金の活用等により新型コロナウイルス感染対策に要する経費を補填し、2019年度を超える8,081万円の黒字決算となった。2021年度は介護保険法、障害者総合支援法の改正に伴う報酬改定が実施されるため、新設加算等の適正な算定等を目指し、迅速な対応を進めていく。

最後に、経営の両輪である財務基盤の安定と人材の育成のため、2021年度に向けた役職者の人事異動や課長職以上の経営マネジメント研修を実施するなど、アメーバ経営の土台創りに継続して取り組んだ。2021年度は、各施設の施設長の専従配置を行う等、組織体制の強化と活性化を目的とした人事異動を実施した。このことにより、法人全体の組織力の強化とリスクマネジメント体制の強化がさらに推進できるものと期待している。

2. 法人の5つの視点

(1) 利用者の視点

新型コロナウイルス感染対策を実践する中で、入居施設ご利用者には制限のある生活を送っていただくこととなった。ご家族との面会についても、一時は感染対策を実施した上での面会を行っていたが、11月の北海道、札幌市内の急激な感染拡大により面会を再度休止することとなった。このような環境下でできることとして、リモート面会の実施やご利用者の写真や生活状況の報告等に取り組んだ。2021年度は、少しでもこれまでの生活を取り戻せるように新型コロナウイルスとの共存も視野に新様式での環境整備に取り組んでいきたいと考えている。

利用者支援としては、ご利用者、職員間の良好な関係作りに向けた接遇の向上の取り組みや職員の知識、技術の向上へ向けた研修の実施、個別ケアの推進、グループケア、ユニットケアの充実等、ご利用者のQOLの向上に向け、専門的視点での関わりを深めた。特に、和幸園では「自立支援」の視点での関わりにより、ご利用者の潜在能力を引き出すケアを実践し、2020年度もご利用者全員が入居当日よりおむつのない生活「日中おむつゼロ」を実現することができた。

また、協力医療機関である南札幌脳神経外科、定山溪病院との連携により、ご利用者、ご家族の希望に即したターミナルケア（看取り）を和幸園・グリーンハイムの両施設において実践している。全国の障がい者支援施設の課題ともなっているターミナル期（看取り）のケアについて、当施設の特色である24時間の看護職員の配置により、2名のご利用者に対し希望に沿ったターミナルケアを実践することができた。

最後に、事故防止、感染症対策、虐待防止、褥瘡予防、各種災害へのリスクマネジメントとして、研修会、学習会、訓練等を実施した。また、不適切なケアの防止のため、福祉施設職員としての理念、支援観の醸成を図るための職員面談や学習会を実施した。さらに、対応に苦慮している事例に係る情報共有と対応の明確化を図ると同時に、組織としてのカスタマーハラスメント対策として、各施設・事業所の利用契約書へのカスタマーハラスメントに対する契約解除条項を追記する改訂を実施した。

（2）財務視点

① 収入の安定確保

各施設・事業所の経営実績としては、「3. 各事業所事業実績状況」の通りとなっているが、2020年度は、特に各施設の入居・ショートステイサービス及び和幸園居宅介護支援事業所、和幸園デイサービスセンター、相談支援事業所グリーンハイムの実績が前年度比で大きく向上した。新型コロナウイルスの感染拡大が経営に大きな影響を与える中で、各事業所においても影響を最小限に抑え、実績を維持することができた。実績の維持、向上のため、各拠点課長、係長との経営改善のための検討会を実施し、課題の明確化と対策の実践を徹底するとともに、拠点間の連携強化を図った結果でもあると考えている。

また、国、地方公共団体等が実施する各種新型コロナウイルス感染対策事業補助金を活用し、法人全体で12,000千円を超える補助金の交付を受け、感染対策備品の購入経費を補填することができた。

② 支出の適正化

長期に亘り物品納入や委託契約等を締結している業者に対し、他業者との見積り合わせや入札による価格の適正化を図るなど、適切なコスト管理に努めた。また、経理規程に定める入札による納入業者選定の基準額に満たない物品購入やリース契約、業務委託についても、当法人にとって有利な場合には入札により業者選定を実施するなど、各業者との緊張感のある適切な関係性を維持している。

さらに、各施設・事業所の職域責任者との予算作成により、実質的な数値を提示することで、コスト管理意識の強化を図るとともに、役職者の責務として計画的な予算執行の推進を図った。その他、様々な補助金・助成金を活用した介護職員等の負担軽減のための各種介護機器の導入に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染対策備品については、一定程度の備蓄品を確保した上で、購入先を複数確保し価格調整を行い、6ヵ月分以上の各種備蓄品を確保した。また、人件費積立金の取り崩しを行い、「Hero's ボーナス」の支給（全2回）や新型コロナウイルス感染者となったご利用者や濃厚接触者となったご利用者へのケアに携わる職員への特別危険手当の支給等、新型コロナウイルス対策事業として法人独自の施策を実施した。

(3) 人材視点（採用力と定着力の強化）

組織の基礎は人材であり、安定的な人材確保と育成、定着率の向上は法人運営に欠かすことができない重要な要素である。これまで、当法人では、特に賃金・待遇改善、福利厚生の実施等を目指し、各種施策を実践してきた。2019年度より永年勤続表彰の表彰期間を縮め、従来の10年、20年、30年表彰に3年、5年表彰を追加し、法人としてより多くの職員への感謝の意を示す機会を設けたことや介護職員等処遇改善加算、特定処遇改善加算での報酬額を超えた待遇改善の実施、福利厚生の一環として仕事と子育ての両立の支援を目的とした職員専用保育園の運営をしていることも人材の確保と定着率の向上のための施策である。さらに、2020年度には、パート職員の賃金・待遇改善を目的とした賞与、各種手当支給に係る給与規程の施行、働きやすい職場環境整備を目的とした正職員の公休数の増加に係る就業規則を施行した。また、法人全職員に対し、新型コロナウイルス対策への慰労と感謝を示すことを目的とした「Hero's ボーナス」の支給（全2回）や新型コロナウイルス感染者となったご利用者や濃厚接触者となったご利用者へのケアに携わる職員への特別危険手当の支給等、新型コロナウイルス対策事業として法人独自の施策を実践した。

次に、職員育成、職場内のより良い人間関係の構築、資格取得支援のための施策として、新人職員向け研修会、事業所内研修等を実施するとともに、プリセプター制度の充実を図り、定期的な面談等の機会を設け、新人職員のメンタルサポートに取り組んだ。また、職員個々のキャリアアップのための実務者研修の受講支援、介護福祉士受験対策学習会を開催した。

(4) 地域視点

当法人では、2007年より約14年に亘り、法人の資源（人材・資金・備品）を活用した地域貢献活動として、地域の高齢者、障がいをお持ちの方々の外出支援を行う「いしやま朝市送迎バス」の運行、認知症の方の介護をしているご家族（地域の方）を対象とした「認知症状改善塾」、イオン藻岩店様と連携し、地域の方々が買い物の際に気軽に相談できる場所づくりとした「介護なんでも相談会」（1回/月）の開催を中心に各種地域貢献活動を実践してきたが、2020年度については、新型コロナウイルスの感染拡大により、全ての地域貢献活動を自粛することとなった。2021年度については、新型コロナウイルス感染対策を図ったうえで、持続可能な地域貢献活動の検討を進めていきたいと考えている。

(5) ガバナンス視点

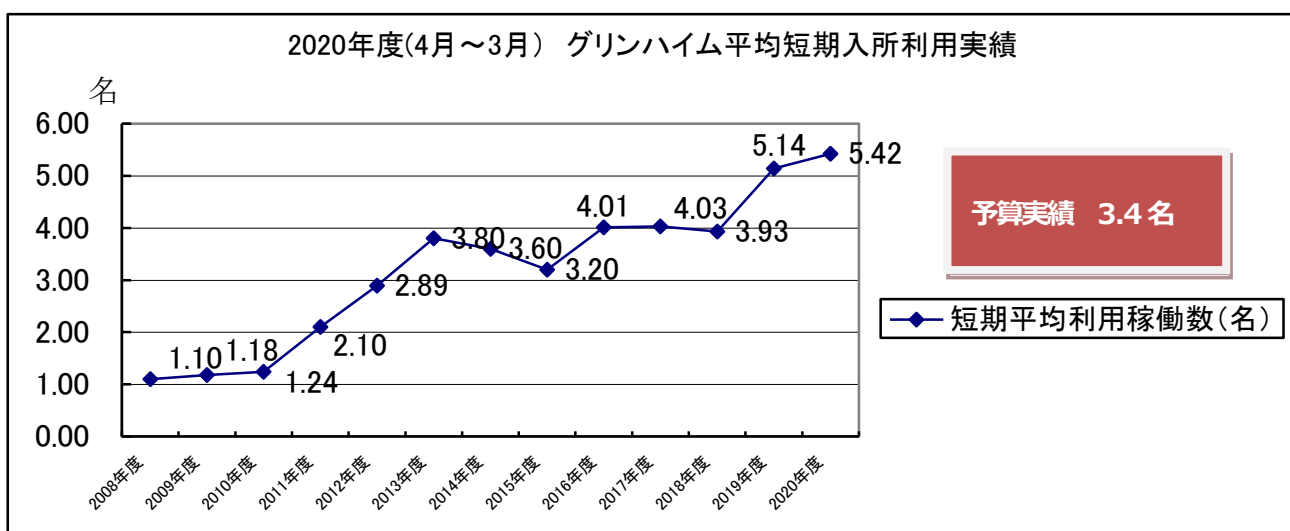
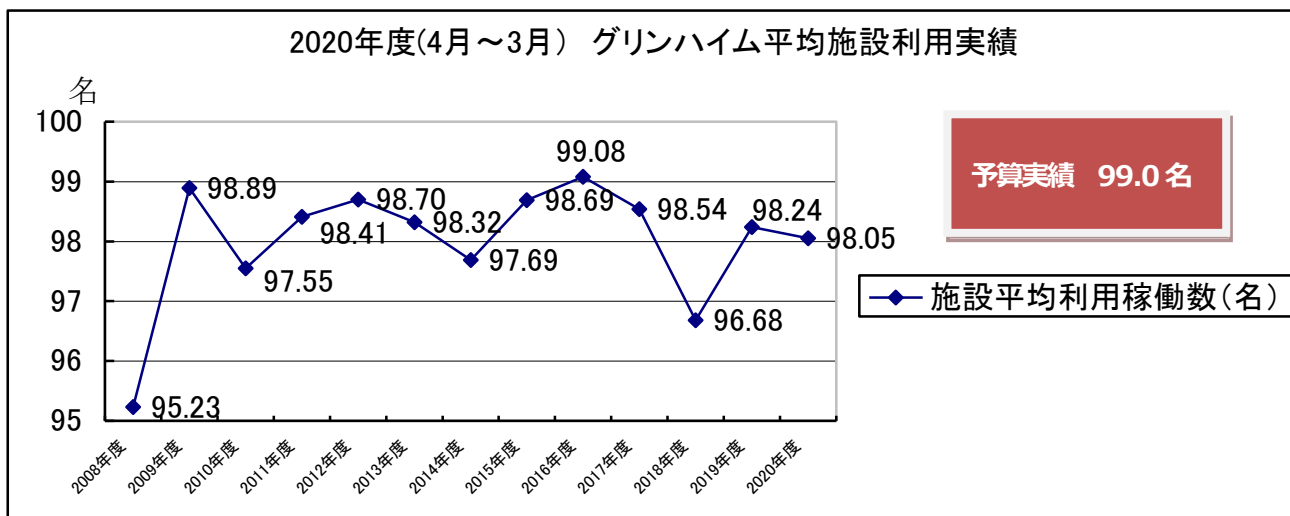
2020年度は、社会福祉法等に基づき、定時評議員会・理事会（決議省略含む）を開催し、予算、事業計画、決算、事業報告、各種規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定及び報告を行った。また、会計、サービス内容の両面にわたる経営と運営の適正化に向けた監事監査を適切に実施した。会計関係については、毎月顧問会計事務所による監査、助言、指導を受け、より正確な会計管理を実践した。また、2020年度は働き方改革への対応に向け、顧問社会保険労務士より助言を得て、改正した給与規程、就業規則を施行するとともに、特に有給休暇、時間外労働に係る労務管理の徹底を図った。

その他、情報公開（定款、各種規程等、事業計画、予算、事業報告、決算等、介護職員処遇改善計画等）、アカウントビリティ（説明責任）の推進のため、内部ではインフォメーション、ネットワーク等を活用し、外部へはホームページや広報誌「かけはし」、Facebook等により情報発信を図り、透明性の高い法人経営に取り組んだ。

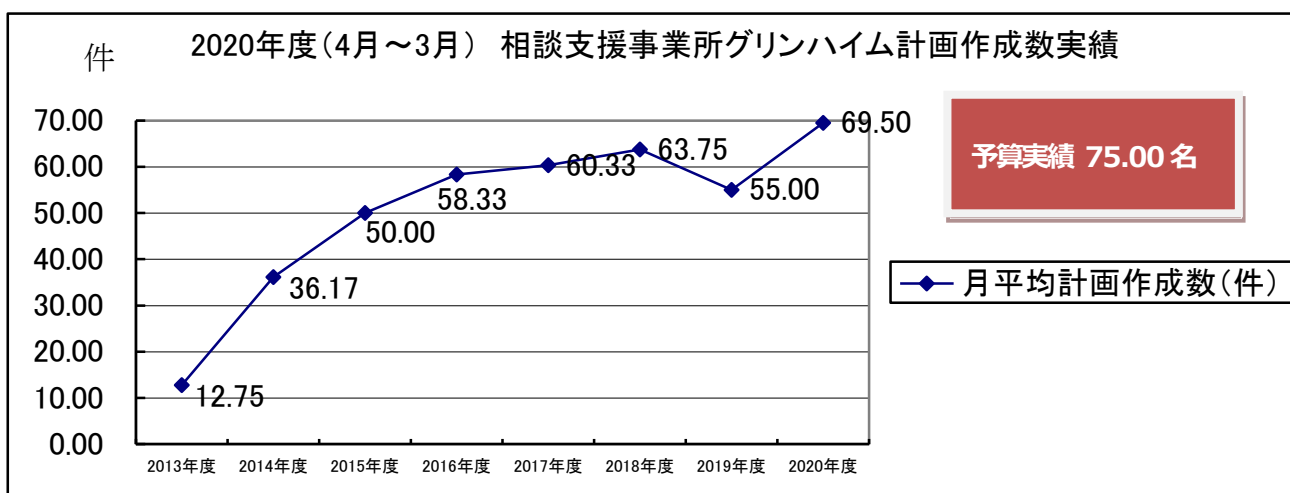
3. 各事業所事業実績状況

(1) グリーンハイム管理区分

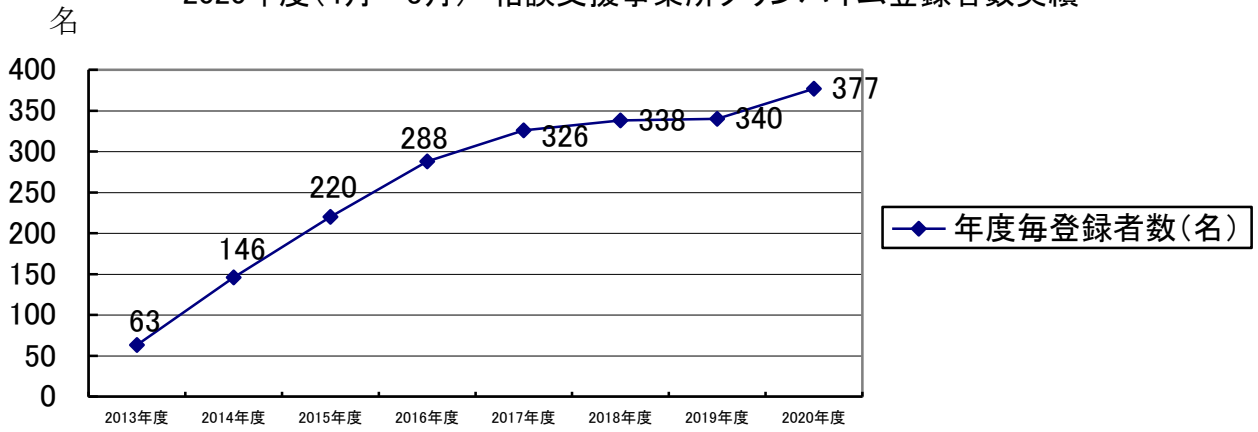
【障がい者支援施設グリーンハイム】



【相談支援事業所グリーンハイム】



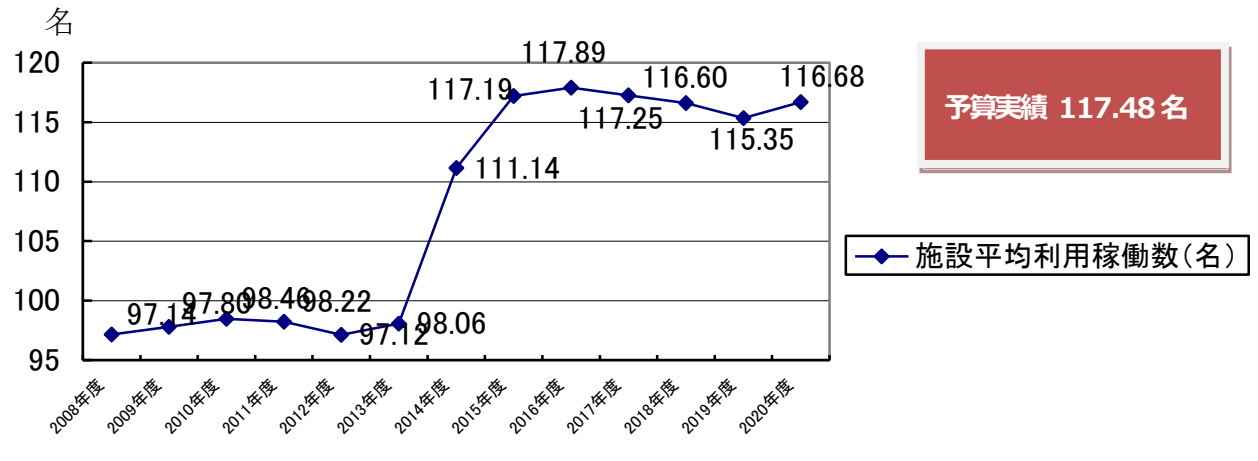
2020年度(4月～3月) 相談支援事業所グリーンハイム登録者数実績



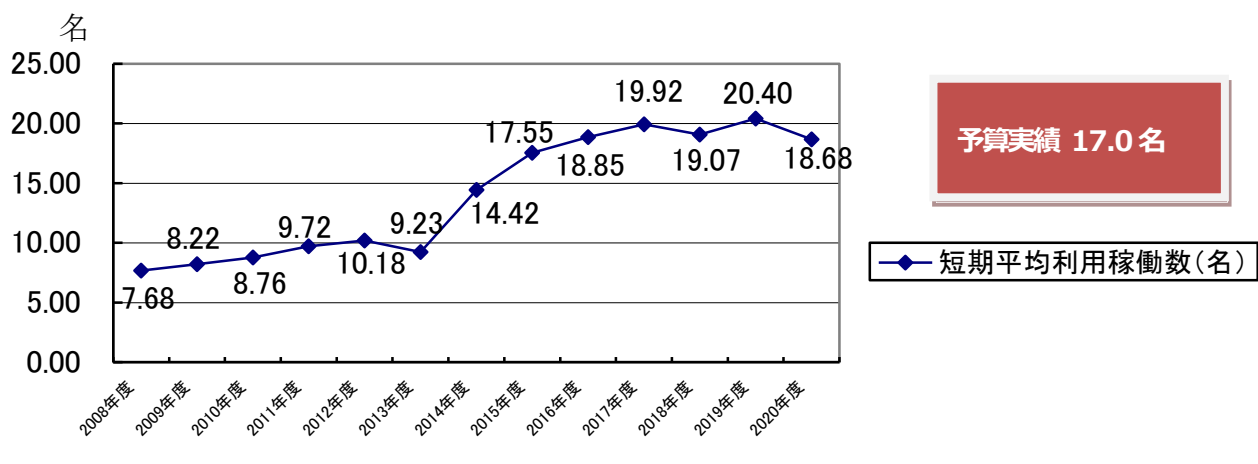
(2) 和幸園管理区分

【特別養護老人ホーム和幸園】

2020年度(4月～3月) 和幸園平均施設利用実績

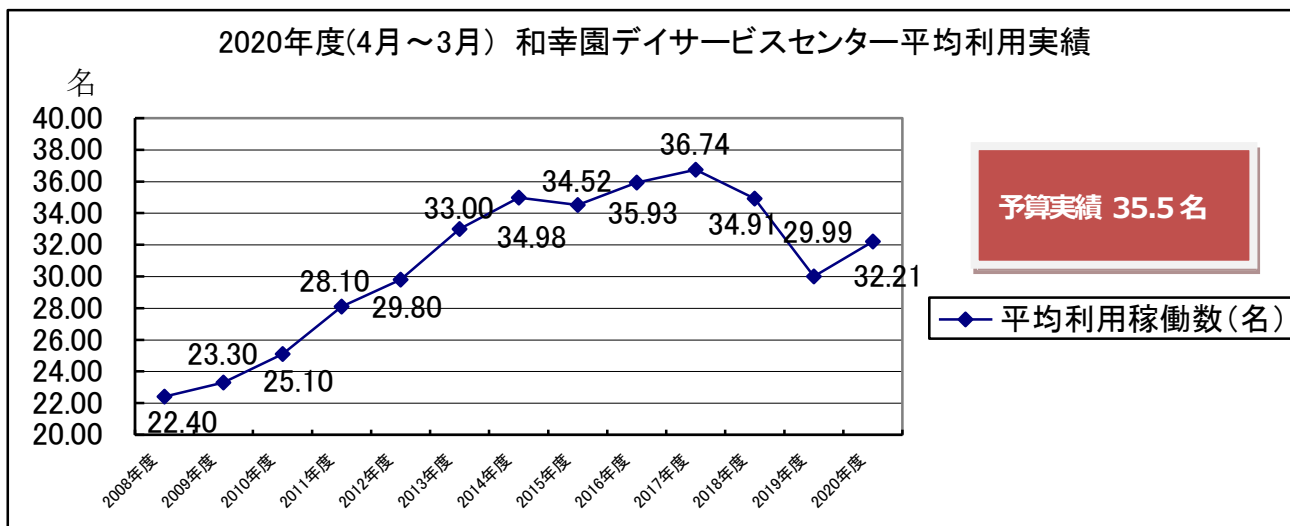


2020年度(4月～3月) 和幸園平均短期入所利用実績

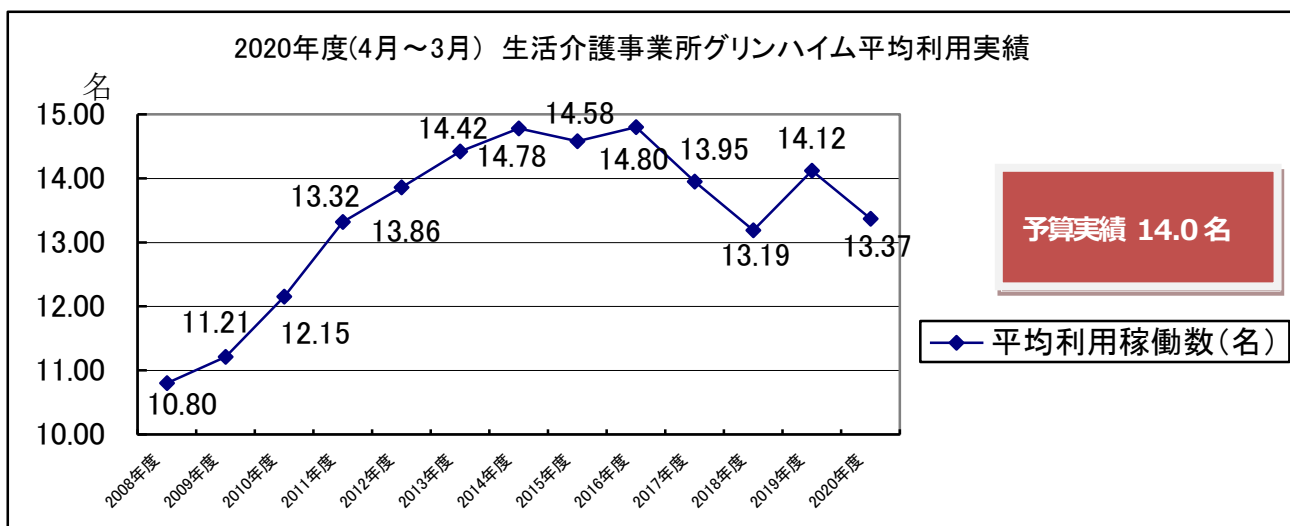


(3) 通所事業部管理区分

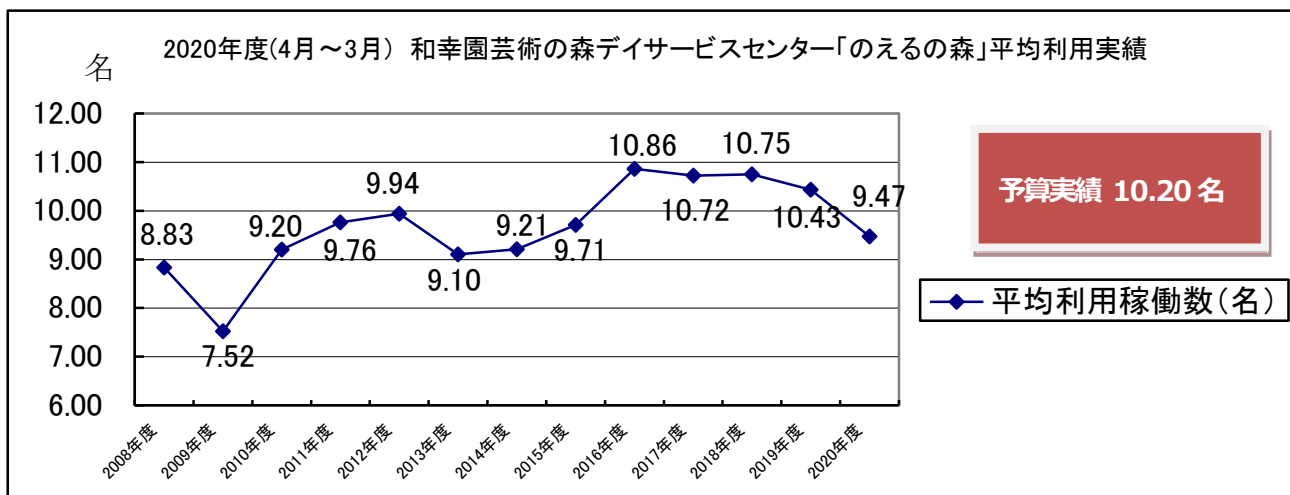
【和幸園デイサービスセンター】



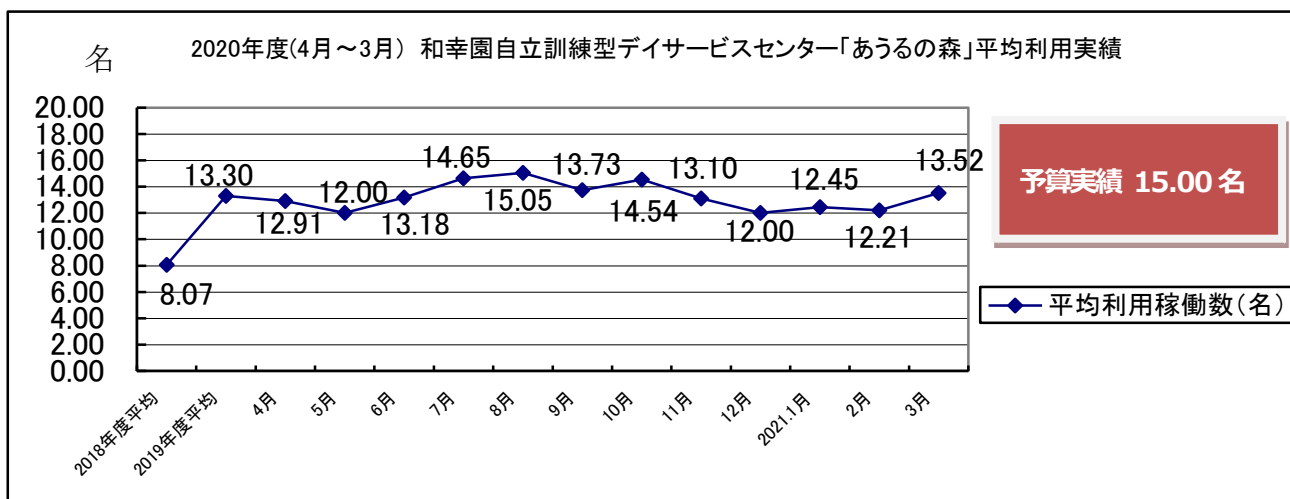
【生活介護事業所グリーンハイム】



【和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」】

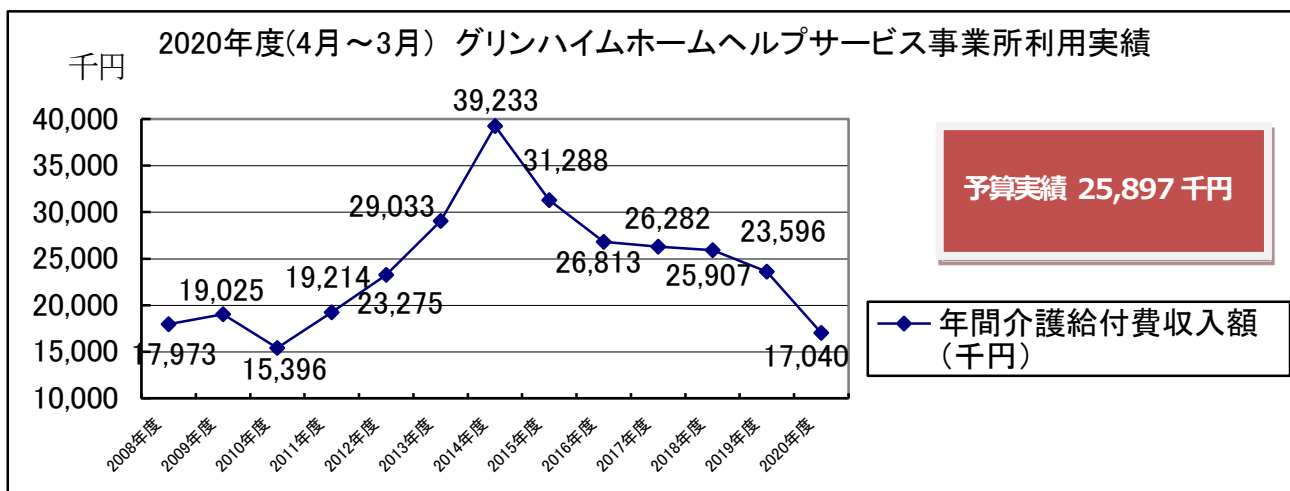
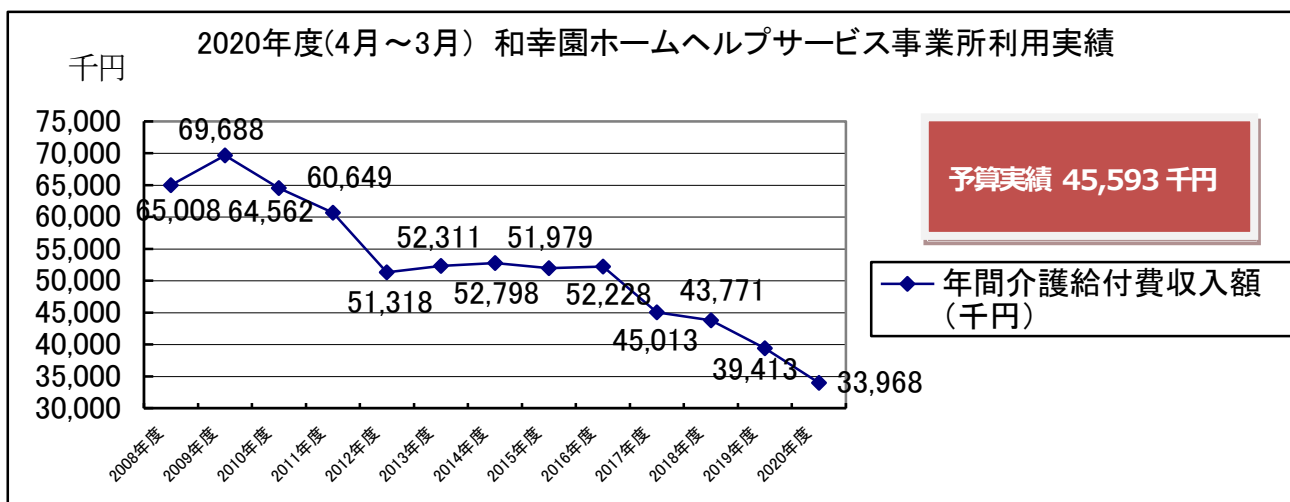


【和幸園自立訓練型デイサービスセンター「あうるの森」】

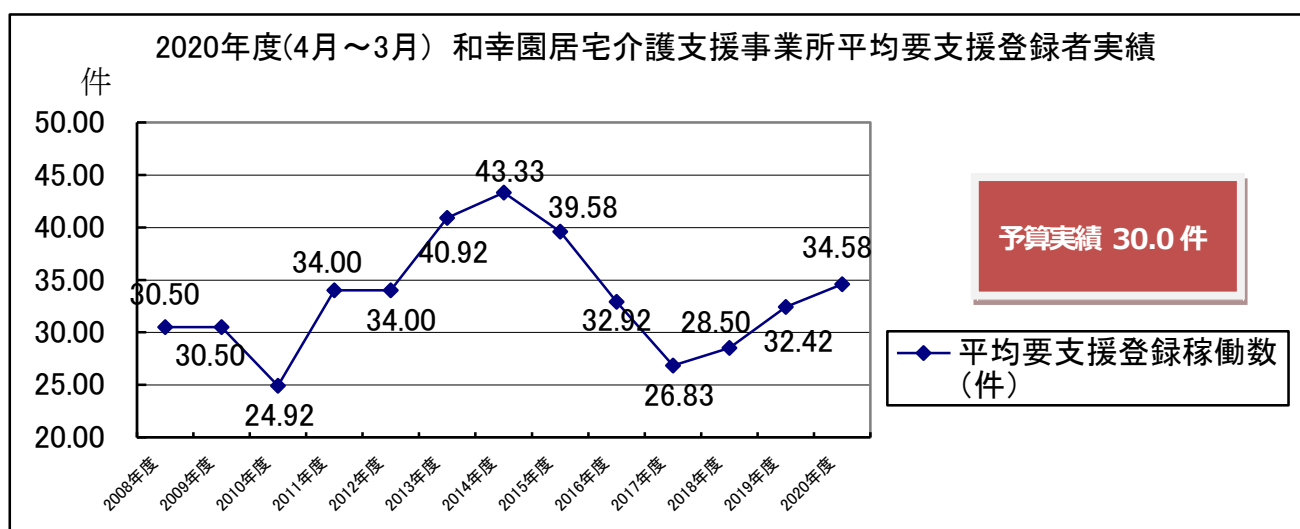
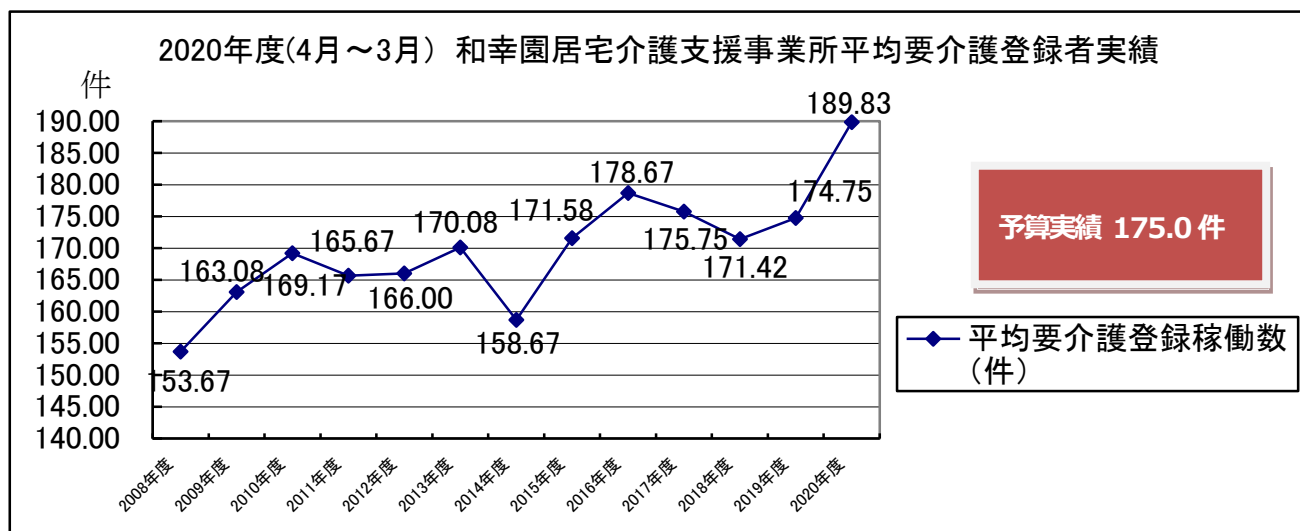


(4) 地域事業部管理区分

【ホームヘルプサービス事業所】



【和幸園居宅介護支援事業所】



1. 法人事務局

(1) 法人事務 (事務局、経理、総務)

法人事務局では、定時評議員会、理事会において、予算、事業計画、決算、事業報告、定款・規程の改正、法人及び事業所の経営上の重要事項の審議、決定を行うための運営を行った。法人の健全経営、透明性の高い運営に向けた施策への支援及び円滑な法人運営のための環境整備を行った。

経理部門については、顧問会計事務所の定期的な監査を受け、助言を得ながら正確、適正な会計処理を実践することができた。また、総務部門については、給与ソフトによる給与計算の短時間化や働き方改革に対応した職員の勤務状況の把握、改善に努めることができた。また、顧問社会保険労務士の助言、指導を受け、法・制度に対応した規程の整備を実現した。その他、各種助成金の申請や届出業務を適正に行うことができた。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染対策の徹底を図ったことから、事務喫茶等のご利用者支援への参画は縮小することとなった。一方で、新型コロナウイルス感染対策として施設内共有部分の定時での消毒清掃や注意喚起の館内放送の実施、職員を対象としたPCR検査（法人独自及び札幌市スクリーニン

グ検査)の事務手続き及び検体採取、提出等を担当した。また、国、地方公共団体等が実施する各種新型コロナウイルス感染対策事業補助金を活用し、法人全体で12,000千円を超える補助金の交付を受け、感染対策備品の購入経費等による法人経営への影響を最小限に抑えることができた。

(2) 理事・評議員・監事 (定数：理事6名、評議員8名、監事2名) 2021年3月31日現在

役 職	氏 名	職 業	任 期
理事長	太田三夫	弁護士	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
常務理事	平松朋紀	グリーンハイム施設長・法人事務局長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
理 事	大沼百合子	元常務理事	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	石川秀也	北海道医療大学 非常勤講師	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	檜森道子	元地域事業部部長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	星野八重子	和幸園施設長	2020. 6. 22 ~ 2021. 6
評議員	浅香博文	札幌市身体障害者福祉協会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	岩本龍明	アイケン工業(株) 代表取締役	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	大磯英太郎	石山商店街振興組合 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	北山和子	札幌市赤十字奉仕団石山分団 団長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	塩田恒雄	芸術の森地区社会福祉協議会会長	2019. 6. 1 ~ 2021. 6
〃	千葉 徹	(福) 札幌育児園 施設長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	西村 稔	(福) 札幌南福祉会 理事長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
〃	福士昭夫	石山地区町内会連合会 会長	2017. 4. 1 ~ 2021. 6
監 事	土肥富彦	元道立福祉村 施設長	2019. 6. 15 ~ 2021. 6
〃	石川由男	税理士	2019. 6. 15 ~ 2021. 6

(3) 理事会開催状況

- 第1回 (日時) 2020年6月5日(金) 決議省略(書面)
 (同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、佐藤史彰、檜森道子(理事6名)
 (確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
 (事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
 (議案) 2019年度事業報告(案)について
 2019年度決算報告(案)について
 監事監査(2019年度全般)結果について
 2020年度 第1次収支補正予算(案)について
 (人件費積立金の一部取り崩し等について)
 定時評議員会の開催について
 (報告) 理事長及び常務理事の職務執行状況について

第2回 (日時) 2020年10月2日(金) 障がい者支援施設グリーンハイム 会議室
(出席者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子(理事6名)
土肥富彦、石川由男(監事2名)
(事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
(議案) 評議員選任・解任委員の選任について
新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の申請について
(報告) 監事監査結果報告について
新型コロナウイルス感染対策状況について
理事長及び常務理事の職務執行状況について

第3回 (日時) 2020年12月18日(金) 決議省略(書面)
(同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子(理事6名)
(確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
(事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
(議案) 2020年度 第2次収支補正予算(案)について
次期評議員候補者の推薦について
障がい者支援施設グリーンハイム施設長の選任について
厨房業務委託契約の更新について
(報告) 監事監査結果報告について
理事長及び常務理事の職務執行状況について

第4回 (日時) 2021年3月26日(金) 決議省略(書面)
(同意者) 太田三夫、平松朋紀、大沼百合子、石川秀也、檜森道子、星野八重子(理事6名)
(確認者) 土肥富彦、石川由男(監事2名)
(事務局) 平松常務理事(兼事務局長)
(議案) 2021年度 事業計画(案)について
2021年度 収支予算(案)について
育児休業規則及び介護休業規則の改正について
(報告) 監事監査結果報告について
理事長及び常務理事の職務執行状況について

(4) 評議員会開催状況

第1回 (日時) 2020年6月22日(月) 決議省略(書面)
(同意者) 浅香博文、岩本龍明、大磯英太郎、北山和子、塩田恒雄、千葉徹、西村稔、福土昭夫
(評議員8名)
(事務局・議事録作成者)
平松常務理事(兼事務局長)
(議案) 2019年度事業報告(案)について
2019年度決算報告(案)について
監事監査(2019年度全般)結果について
新役員(理事)の選任について
(報告) 理事長及び常務理事の職務執行状況について

(5) 職員表彰関係

表 彰 内 容	受 賞 内 容		
全国老人福祉施設協議会	15年勤続	該当なし	0名
	20年勤続	和幸園	2名
北海道社会福祉協議会長表彰 (北海道社会福祉協議会)	20年勤続	該当なし	0名
札幌市社会福祉事業表彰 (札幌市社会福祉協議会)	15年勤続	該当なし	0名
長期勤続職員表彰 (北海道民間共済会)	5年勤続	グリーンハイム	8名
		和幸園	16名
		和幸園デイ	3名
	10年勤続	グリーンハイム	1名
		和幸園	5名
		和幸園デイ	1名
	20年勤続	該当なし	0名
	30年勤続	グリーンハイム	1名
全国身体障害者施設協議会	30年勤続	該当なし	0名
永年勤続表彰 (北海道ハピニス)	3年勤続	和幸園	8名
		グリーンハイム	4名
		生活介護	2名
		和幸園デイ	2名
		芸術の森デイ	2名
		ホームヘルプサービス	2名
	5年勤続	和幸園	22名
		グリーンハイム	9名
		生活介護	2名
		和幸園デイ	1名
		芸術の森デイ	1名
		ホームヘルプ	2名
	10年勤続	和幸園	4名
		グリーンハイム	1名
		生活介護	1名
		和幸園デイ	2名
		ホームヘルプ	1名
		居宅介護	1名
	20年勤続	和幸園	1名
		ホームヘルプサービス	1名
		自立訓練デイ	1名
30年勤続	グリーンハイム	1名	

(6) 防災訓練実施状況

実施日	実施内容	指示条件
2020年 6月19日(金)	【火災避難訓練】 通報・ご利用者の避難誘導 (机上訓練) 屋外での消火器訓練	グリンハイムより出火想定訓練(南側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 グリンハイム本館3階北側居室302号室 ②他階・和幸園及びデイサービスでは 日中想定訓練(午前11時00分)
2020年 6月19日(金)	【地震発生時避難訓練】 事業継続計画 (BCP) に基づき、ご利用者の安否確認・避難訓練 (机上訓練) 及び建物・外周の状態確認	震度5の地震発生によるブラックアウトに伴うBCP発動の想定訓練 ① 地震発生時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 北海道内全域
2020年 6月19日(金)	【土砂災害時避難訓練】 事業継続計画 (BCP) に基づき、ご利用者の避難訓練 (机上訓練) 及び建物・外周の状態確認	集中豪雨発生による危険個所の探索及びBCP発動の想定訓練 ① 集中豪雨発生時間及び場所 日中想定 午前11時00分 札幌市内
2020年10月 9日(金)	【火災避難訓練】 通報・ご利用者の避難誘導 消火器の取り扱い説明	和幸園より出火想定訓練 (3丁目側へ避難) ①出火想定時間及び場所 夜間想定 午後11時00分 和幸園 (4階) 4条1丁目10番地 (居室) ②他階・グリンハイム及びデイサービスでは 日中想定訓練 (午前11時00分)
2020年11月23日(月)	【緊急連絡・参集訓練】 緊急連絡網による緊急連絡	新型コロナウイルス感染者 (クラスター) が施設内で発生したことを想定した緊急連絡訓練 (午後6時30分から連絡開始)
新型コロナウイルス感染拡大のため中止	【他施設との共同避難訓練】 地震による災害時緊急避難訓練	震度6の地震発生による他施設からの避難者受入れ訓練 (または他施設ご利用者受入れ訓練)

(7) 業務委託状況

業務内容	委託先
施設厨房業務	(株) エムズフード
夜間警備業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
送迎車輛運転業務	北海道東急ビルマネジメント (株)
清掃業務	(株) シムス
昇降機定期点検業務	SEC エレベーター(株) 三菱電機ビルテクノサービス(株)
専用水道水質検査業務	(財) 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター
自動ドア保守点検業務	フルテック(株)
非常火災設備保守点検業務	(株) ネットワークイン
冬期除雪業務	(有) 小林重機 (本体施設)、(有) グッドウイング (地域事業部)
デジタル交換機保守	新日本通信工業(株)
税務・会計顧問	税理士法人幌西会計
労務・総務顧問	社会保険労務士事業所テラス
職員検診	医療法人社団明日佳 札幌検診センター
ストレスチェック	医療法人社団五稜会 札幌 CBT&EAP センター

(8) 法人建物・車輛の維持管理

① 建物

実 施 内 容		
年間	電気設備点検 (グリーンハイム・和幸園) 専用水道水質検査 (グリーンハイム・和幸園)	[北海道電気保安協会] [道葉検]
4月	貯水槽清掃 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
6月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備 汚水槽清掃点検・地下タンク点検 (グリーンハイム・和幸園)	[正栄機工] [小川技研]
8月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
9月	消防用設備保守点検 (グリーンハイム・和幸園)	[ネットワークイン]
10月	厨房繰りストラップ清掃	[小川技研]
11月	厨房用ヒートポンプ外調機点検整備	[正栄機工]
12月	エコキュート点検整備 (グリーンハイム)	[前川製作所]
1月	汚水槽清掃点検 (グリーンハイム・和幸園)	[小川技研]
3月	1号ボイラー点検整備	[NTEC サービス]

② 車輛

車輛台数 30台/車検10台実施

2021年3月31日現在

所 属	台数
グリーンハイム・和幸園職員送迎バス	1台
障がい者支援施設グリーンハイム	4台
特別養護老人ホーム和幸園	3台
和幸園デイサービスセンター	6台
生活介護事業所グリーンハイム	3台
和幸園芸術の森デイサービスセンター のえるの森	3台
和幸園指定居宅介護支援事業所	4台
グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所	4台
和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森	2台
計	30台

(9) ご利用者預り金管理

区 分	預かり人数	預り金残高 (2021.3.31)
グリーンハイム	85名	180,518,249円
和幸園	3名	541,949円

(10) 法人研修 (他法人・事業所公開研修会)

NO	研 修 名	開催状況
1	「身体拘束と虐待について」	2020年5月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
2	「アンガーマネジメントについて」	2020年7月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
3	「アサーションについて」	2020年9月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
4	「感染症対策について」	2020年10月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
5	「メンタルヘルス対策 (アロマセラピーor 断捨離)」	2020年12月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
6	「介護福祉士受験対策講座」	2021年1月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
7	「リスクマネジメントについて」	2021年1月～2月 新型コロナウイルス感染防止のため 中止
8	「介護福祉士受験対策講座」 法人職員による講義	2020年7月～2021年1月 (全4回実施) 新型コロナウイルス感染防止のため 11月以降はテキストのみ配布

(11) 地域貢献活動

下記の定例地域貢献活動は新型コロナウイルス感染対策のため全て中止

- ・介護なんでも相談会 (イオン藻岩店様店内特設ブースにて相談会を開催)
- ・認知症状改善塾
- ・いしやま朝市送迎バス
- ・地域福祉活動 (町内会ゴミ拾い等)

(12) 広報活動 (広報委員会)

- ・広報誌「かけはし」の作成 (年3回発行)
2020年6月発行 (50号)、2020年11月発行 (51号)、2021年3月発行 (52号)
- ・ホームページ及びFacebookの運営

2. 障がい者支援施設 グリンハイム

1. 総括

2020年度は、「新型コロナウイルス感染対策」を基本として、「質の高いご利用者支援」と「人材の確保、育成及び職員定着率の向上」、「安定した施設経営」を柱に施設運営を推進した。

運営の柱である「質の高いご利用者支援」としては、4年目となる「接遇向上 Challenge」において、ご利用者支援の基本となる人間性を高めること、またご利用者とのより良い関係づくり、そして職員間の円滑なコミュニケーションの促進を目指し、各グループ・セクションでの具体的な目標設定、実践、評価・振り返り、改善のPDCA サイクルでの実践に取り組んだ。多種多様な障がいをお持ちのご利用者に対するコミュニケーション力等に課題はあるものの、職員間の連携力が向上していることで各種課題に対しチームでの対応が可能となってきている。

次に、「人材の確保、育成及び職員定着率の向上」については、福祉・介護業界の大きな課題である人材不足、特に障がい者支援分野での人材不足は著しく、職員確保に苦慮している中、当法人では人材紹介会社や各種紙面・ネットによる求人媒体、各種求職者ガイダンス、当法人ホームページ及び求人サイトなど、多岐に亘る求人活動を展開し、2020年度は11名の人材（内介護職員9名）を確保することができた（法人全体で39名/年度）。このような厳しい環境の中で、当施設の職員となってくれた大事な人材を大切に育成し、定着させていくため、主任、リーダー、プリセプターとの新人職員の育成方法の検討、育成状況の確認及びフォローアップ面談と施設全体で職員を育成、フォローアップするための体制づくりに取り組んだ。2020年度1年間の退職者数（定年退職者除き）は5名（2019年度17名、2018年度13名、2017年度4名、2016年度22名）と例年よりも少なく、特に2020年度は入職した職員11名のうち退職者は2名となっており、多くの新人職員は順調に育成、定着することができた。これは、「接遇向上 Challenge」において、職員間のコミュニケーションの促進に取り組み、役職者及び育成担当職員以外の職員からの新人職員育成へのフォローアップや働きやすい環境が構築でき始めている結果でもあると評価している。

続いて、「安定した施設経営の推進」については、施設入居実績98.05%（前年度比+0.19%）、ショートステイ利用実績135.5%（前年度比+7.00%）という結果となり、総合実績において前年度実績及び予算実績を上回る結果となった。ここ数年は、入居者の高齢化や医療及び介護の重度化が進んでおり、退去者、入院者が多くなっているが、入居待機者の確保と早期の入居前準備の徹底、また入居部門の空床をショートステイに利用する等の緻密なベッドコントロールにより実績の向上に結び付けることができています。

2020年度は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者・ご家族等からのサービスの利用自粛や発熱者等が発生した際には事業休止をすることも視野に、まずはクラスターを発生させないことを前提に施設運営を行ってきた。セクションの枠を超えて全職員が協力して感染対策を徹底してきた結果、施設・事業所内での感染者を発生させることなく、安定した施設運営を継続することができた。2021年度に向け、ご利用者並びに職員の新型コロナウイルスワクチンの接種を契機に、ご利用者が通常の生活を送ることができるよう環境の構築に取り組んでいきたい。

最後に、施設長就任から4年の間で、新人職員の育成方針、育成体制の構築や職員育成を目的としたグループ間、事業所間、職種間の人事異動、リーダー・主任職以上の役職者の育成に取り組んできた。また、職員の定着を基礎としたチームケア力の向上に努めるとともに、職員個々の能力、資質を見極め、向上させていくことに尽力してきた。その結果、2021年度からは専従の施設長を介護現場経験者から登用するとともに、介護現場をまとめる係長職を現場主任から、主任及びリーダー職についても現場職員より昇格する人事を行うこ

とができ、新体制での施設運営が始まることとなった。グリーンハイムの永きに亘る歴史と新時代の介護、支援の考え方を備え、職員個々の持ち味を活かすことができる柔軟な施設運営を推進していきたいと考えている。

2. 本年度の重点目標

【相談係】

① 入居及びショートステイのベッド管理を適切に行う。

施設入所の利用実績は平均利用人数98.05名であり、目標に掲げていた99.00名には届かなかった。ショートステイの利用実績は平均利用人数5.42名であり、目標に掲げていた3.4名を大幅に上回り、過去最高の実績となった。2019年度より、入院者の空床ベッドでのショートステイご利用者の受け入れを積極的に進め、2020年度はショートステイとして300日稼働することができた。入院者は2019年度よりも増加していることから、今後も医療機関と連携を図り、現状の把握や退院の目処などの情報収集をこまめに行うことで入院期間短縮への取り組みを行っていくとともに、空床ベッドに対しては、ニーズを把握しながら、ショートステイご利用者の受け入れを継続していきたい。

② 待機者確保のため、医療機関への周知・広報活動を計画的に行う。

待機者については市内の相談支援事業所に書面で周知活動を行い、数件の利用申し込みに繋がった。一時的に待機者は増加したが、入所ご利用者の退所が続き、男性待機者が実質で5名、女性待機者が実質で2名となっており、依然として待機者の確保に苦慮している状況となっている。引き続き、相談支援事業所や医療機関等への周知活動を行いながら、待機者の確保に向けて取り組んでいきたい。

③ ワークライフバランス向上のため、時間外労働に関する要因分析と業務整理を行い、時間外労働の低減を図っていく。

2020年度は、事務部門を担当するパート職員が定着し、既存業務についても見直しを行う等業務の効率化も図った。その結果として、相談員全体の時間外労働時間は2019年度よりも減少している。次年度は、個々の業務管理を行いながら、さらなる時間外労働の低減に向けた取り組みを継続していきたい。

④ 計画的に有給休暇を取得し、付与日数の50%取得を目指す。

有給休暇については、概ね50%の取得ができているが、一部取得できていない職員もいるので、次年度は、全職員の取得に向けて体制を整備していきたい。

⑤ 各種加算の確実且つ適正な算定とコンプライアンスの徹底を図る。

体制加算である重度障害者支援加算、栄養ケアマネジメント加算は、継続的に算定することができた。また、2020年度は対象ご利用者の入所に伴い、新たに体制加算である地域生活移行個別支援特別加算Ⅰの算定、個別加算である地域生活移行個別支援特別加算Ⅱの算定を進めることができた。地域生活定着支援センターと連携を図りながら、適切な加算算定に向けた準備と実施を行ってきたい。

リハビリテーション加算については、年度末時点で対象者75名の算定に至っている。今後も加算算定を継続するために、看護課や南札幌脳神経外科と連携しながら体制を構築していくとともに、次年度は新たな加算算定に向けた検討を進め、適切な実施に繋げていきたい。

⑥ 制度改正の内容(単価、加算要件等)について十分理解し、改正の内容に即した事業展開を図る。

障害支援区分について、2020年度はコロナ禍により、行政からの通達に基づき現在の区分を1年延長する措置を行っている。障害支援区分で重度に当たる区分5、6の割合は年度末で76%であり前年度末より微減している。ご利用者の状態像把握に努め、通常の認定調査のほか、途中で状態が変わった場合の区分変更についても都度検討し対応していきたい。

【生活係】

① ご利用者が基本理念に基づいた生活を過ごせるよう、個別支援計画に基づいた支援を提供する。

法人理念を念頭に、ご利用者の思い気持ちに寄り添い、個別支援計画書に基づいた介護を、他職種と協働で実施できるよう努めてきた。

また、看取り介護で3名のご利用者を看取ることとなった。身体の変化に伴う急を要する支援の変更に速やかに対応しなければならないこと、ご本人の不安な気持ちに寄り添うことの難しさを感じながら、多職種連携で支援をできたことは、介護員の自信にもなり、今後の支援に生かしていきたい。

② 職員間の意思統一を図り、チーム力の向上を図る。

主任リーダー会議、各委員会での話し合いを通して、5グループの横のつながりにも目を向け、各グループの情報を交換し、共有した。そのことで、生活係全体の質の向上につながるよう今後も継続していきたい。そして、今後も法人理念を基に介護員の意思統一を図っていきたい。

③ マニュアル遵守を図り、事故や怪我の防止、感染症の予防に努める。

新型コロナウイルス感染予防で終始した一年となった。感染予防物品の管理を始め、不足の事態に備え、各グループにおいてガウンテクニック及びゾーニングのトレーニングを実施した。感染疑いによる隔離者に対する介護では、このトレーニングを生かし迅速に実践することができた。介護員一人ひとりの感染予防対策により感染まん延にもならず運営を継続することができた。

事故防止については、リスクマネジメント委員会にて、事故が繰り返されるケースの事例を多職種で検討しグループに持ち帰ることで介護の実践に生かすことができた。これからも多方面からのアセスメントにより、起こり得るリスクを予見し対応していきたい。

また、緊急時対応訓練を各グループの持ち回りとして、毎月の定例実施となった。その結果、窒息事故に迅速な対応ができるよう訓練に対する介護員の意識も変化し、危機意識が強くなったと考える。

④ 不適切なケアの発生を防止し、接遇の向上に取り組む。

新型コロナウイルス感染予防のため、研修は、虐待防止委員会及び接遇委員会において開催することはできなかった。委員会内では、委員が考え意見を出し合いグループに持ち帰り検討することで、話し合いを活発化させ意見交換に重点をおいた。

また2020年度より、虐待防止マニュアルに従い、「虐待防止チェック表」に基づいたセルフチェックを毎月グループ内で実施し、定着したところである。

⑤ 専門職としての知識、技術を習得し、介護サービスの質の向上を図る。

知識技術を習得し現場で実践することに重点をおき、主任会議においても「実践」を繰り返し確認してきた。今後も習得した知識技術を利用者に提供することでQOLの向上に結びつけていきたい。

また、新人職員の育成プログラムにある介護技術講習を定例化し、新人職員のみならず経験年数のある介護員も参加できるようにし、改めて学ぶ機会を作るようにしている。

「スキルアップ研修」と名付け、自主参加での研修を計画し実施した。リモートでのオムツ研修だけではあるが、毎回1～3名の参加があり、積極的に学ぼうとする姿勢がみられた。はじめたばかりではあるが、今後も継続し学べる機会を設けていきたい。

⑥ 時間外労働の低減と有給休暇の取得を推奨し、労働環境の適正化を図る。

職員が定着し、職員体制も整ってきた。既存職員がしっかりと業務に当たることができていることから、時間外労働は一定程度発生しているが、全体としては増加していない状況である。有給休暇付与日数の50%を取得できている状況であるが、消化率の低い職員もいるため今後の検討事項である。

時間外労働と有給消化についてはグループ間での差が大きくなるように、業務改善や適正な人員配置を実施していきたい。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

【相談係】

入居部門については、2階、3階、西館に担当相談員を配置する体制を継続し、ご利用者やご家族、職員にも定着し、相談員一人ひとりが担当者として責任を持ちながらご利用者、ご家族と向き合い、ご利用者が「その人らしい生活」を送れるような支援体制を構築することができた。

2020年度はコロナ禍により、ご利用者の外出支援を行うことができず、施設で提供する日中活動や行事等についても、これまでの実施方法が難しかったが、レク係会議を開催しながら、職員の想像力やアイデアによる新たな方法で取り組みを実践することができ、制約が多い中でご利用者の楽しみや喜びに繋がる結果となった。

虐待防止委員会では、虐待防止月間で実施したアンケート集計結果を分析し、次年度の取り組みに向けた根拠を示すことができた。またリスクマネジメント委員会では、グループごとに発生した事故の検証を委員会内で情報共有し、グループでの取り組みに繋げる等一定の効果を果たすことができた。

短期入所については、ご利用者やご家族と連絡を密に取りながら、ニーズに合わせた利用に繋げることができた。また、生活係や看護係の理解や協力を得ながら、新規のご利用者を受け入れることもでき、短期入所事業としての役割を果たすことができた。

【生活係】

2020年度は、新型コロナウイルスの猛威に立ち向かう一年となった。感染への恐怖そして不安の中、ご利用者職員一丸となって感染予防に努めた。そのご協力もあり大規模施設ながら新型コロナウイルスの感染まん延することなくご利用者に過ごしていただくことができた。ご利用者については、外出の制限及びご家族等との面会の制限を余儀なくされ、不便だけでなくとても寂しい思いをされている状況となっている。ご利用者は施設内だけの生活となり、職員は消毒業務に追われることが続いた。その中で、感染対策をとった行事をレクリエーション係で企画し楽しんでいただくことができた。「よりみち焼肉会」「リモートのど自慢大会」「出前餅つき」「リモートビンゴ大会」など、コロナ禍でも楽しめるレクリエーションの企画であった。

新型コロナウイルス感染の終息の見えない閉鎖的な社会状況で、ご利用者も介護員も気持ちが落ち込みストレスのたまる日々になっている今、介護員の接遇意識を強くし、ご利用者の気持ちに寄り添える支援となるよう努めていきたい。

「ヒヤリ」件数は2020年1,196件であり、「事故」件数は167件であった。重大事故発生により、緊急時訓練の重要性を改めて認識し訓練の実施に取り組み定例化した。今後も継続して実施していきたい。また、ヒヤリかどうかあいまいな事項に関しても「ヒヤリ」として記録に残すこととし、グループ内の情報の共有化を進めることで、多方面からの対策を検討しQOLの向上に結び付けることができた。ご利用者の支援だけでなく、介護員の専門性の向上にもつながる結果となり、今後も記録の取り方とその重要性について周知し実施していきたい。

(2) 財務視点

入居の実績目標99,00名に対し、98,05名の結果となり、実績目標達成には至らなかった。前年度より入院日数は154日増加し、外泊はコロナ禍によりほぼ無く、ご利用者ご家族逝去に伴う葬儀参列のための1度に留まっている。また、退居から入居までの日数が99日増加した。入院日数は増加傾向にあるため、医療機関と連携しながら、状況確認を行うとともに、早期退院に向けた取り組みを継続していきたい。

待機者確保については、男性待機者は実質5名、女性待機者は実質2名の状況である。待機者確保は、退居から入居までの日数削減にも繋がることから、次年度も周知・広報活動を継続していきたい。

ショートステイについては、実績目標3,6名に対し5,42名の結果となり、過去最高の実績となった。定期のご利用者が安定的に利用していただけたこと、生活係や看護係との協働により、入居ご利用者の入院による空床ベッドでのショートステイご利用者の受け入れができたことが結果に繋がっている。ご利用者のニーズに対する職員の理解や、受け入れにあたっての事前準備、専門性の高いケアの実践が適切になされた結果であると考えている。

(3) 人材確保と育成

【相談係】

1年を通し、適切なコミュニケーションを図りながら、良い関係性を保ち業務にあたることができた。2020年度は2019年度に続き、相談係の主な業務について、どの相談員でも対応できるような体制を構築することができた。次年度は適切な業務分担と業務の合理化を行うとともに、施設の中核的な役割を担う相談員の育成のため、必要な知識や技術のさらなる獲得に向けて、勉強会等を実施しながら、相談員としての専門性の幅を広げていきたい。

【生活係】

「育成会議」をリーダーで立ち上げ月に一度実施し、新人育成方法の見直しをしている。今までの「新人育成プログラム」を、より実践に則した内容及び書式に改良した。内容としては、まずは介護技術習得の基盤を固めた。日程を定例化し、理学療法士にも協力を仰ぎ実施することでより専門的な研修となった。スケジュールも段取りよく組めることになり新人への指導のスケジュールもスムーズに行われている。書式についても、プリセプターの意見を取り入れ、簡潔かつ使いやすいものとし、今後も状況に応じてスピーディーに更新していきたい。

新人育成をスピーディーに進め分かりやすくすることで、未経験の新人も介護に安心して入ることができ、既存の職員も、育成がプリセプターだけの業務ではなく職員全員で実施することである意識を高め、また新人の習得の進捗状況をいつでもだれでも把握できるようにしていきたい。

(4) 地域貢献の推進

コロナ禍により、施設見学や真駒内養護学校もなみ学園分校の生徒による清掃ボランティアの受け入れ、札幌ワズ様のドッグダンス練習場所の提供を行うことができなかった。次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら受け入れ実施可能性について検討を行っていきたい。

2020年度は虐待緊急保護の短期入所の受け入れを行った。次年度も短期入所ベッド、入院者空床ベッドの状況をみながら、虐待等の緊急保護ケースの依頼があった際には迅速に情報を内部共有し、受け入れを進めていきたい。

(5) ガバナンス体制の強化

定期的に実績記録や個別支援計画書等、各種計画書類の同意を確認しながら進めたため、適切な書類整備ができていていると考える。また、相談係会議を定期開催し、相談員全員で種々の情報共有や支援方針を話し合うことができ、個別ケースについての検討を進めることができた。次年度も、各種書類や記録の整備等、適切なコンプライアンス体制の維持、向上に努めたい。

4. 年間行事報告

行事名	実施日	内 容
事務喫茶	各グループ1回(全5回)	事務員、栄養士、理学療法士共同による出前喫茶
ご当地フェア	4月17日(金)、5月21日(木)	エムズフード主催 全国ご当地メニュー
春季合同避難訓練	5月19日(金)	グリーンハイム中心の机上火災避難訓練
天ぷらの日	6月12日(金)	行事食として天ぷら等の食事を提供
焼肉昼食会①	7月10日(金)、8月7日(金)	グループごとに焼き肉等の食事を提供
敬老の集い	9月18日(金)	65歳以上の方々を対象にお祝い ご利用者全員にお祝いの食事を提供
秋季合同避難訓練	10月9日(金)	和幸園中心の火災避難訓練
蕎麦の日	10月21日(水)	グループごとにそば等の食事を提供
寿司の日	11月11日(水)	エムズフード主催 寿司の提供
クリスマス忘年会	12月25日(金)	会食と演芸やゲーム(オンライン)を楽しむ
餅つき	12月27日(日)	餅つきで季節感や年中行事を体感する
新春ゲーム大会	1月1日(金)	グループごと新春祝いの催し
節分	2月2日(火)、2月3日(水)	年男・年女による豆まき
鍋の日	2月5日(金)、3月5日(金)	寄せ鍋、すき焼き等の食事を提供

5. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2021年3月31日現在

職 名	配置基準数	現員数	備 考
施設長	1	1名	
事務員	必要数	7名	うち、非常勤3名(パート)
サービス管理責任者	2	2名	
生活支援員(相談)	68.2 (常勤換算)	3名	
生活支援員(介護)		65名	うち、非常勤11名(パート)
看護職員		11名	和幸園兼務
理学療法士		1名	
医師	必要数	1名	配置医
栄養士	1	1名	
管理員	—	4名	うち、非常勤2名(パート)
計	—	92名	

(2) 職員配置比率 (定員/入居100人、短期4人)

職 種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
生活支援員 (相談)	2.0	97.3人/68.2人 (基準 97.3人/1.7=57.23人)	1.42人
生活支援員 (介護)	60.1		
看護職員	5.1		
理学療法士	1.0		
計	68.2	※2020年度 生活介護事業実績を基準	

※ 加算基準では前年度実績入居者数を1.7で除した数値以上となっている。

(3) 職員内部研修

新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえて、2020年度の研修は実施していない。

(4) ご利用者状況

① 入退居状況

	2020. 4. 1	2020. 4. 1 ~ 2021. 3. 31		2021. 3. 31
	在 籍 者	入 居	退 居	在 籍 者
男 性	52	6	4	54
女 性	48	4	6	46
計	100	10	10	100

② 退居理由

区 分	男	女	計
死亡	2	4	6
他の施設・病院	2	2	4
家庭復帰 (地域移行)	0	0	0
計	4	6	10

③ 月別平均ご利用者数（定員／入居100人、短期4人）

	入居			短期		
	2020年度	2019年度	2018年度	2020年度	2019年度	2018年度
4月	98.20%	98.60%	99.43%	106.67%	109.17%	102.50%
5月	98.23%	99.00%	99.03%	130.65%	110.48%	90.32%
6月	99.87%	99.70%	98.27%	130.00%	106.67%	94.17%
7月	98.16%	97.81%	95.90%	128.23%	131.45%	100.81%
8月	99.06%	96.32%	95.74%	127.42%	132.26%	97.58%
9月	97.27%	96.23%	94.73%	136.67%	150.83%	105.00%
10月	97.65%	97.97%	96.97%	148.39%	145.97%	100.81%
11月	96.07%	99.47%	97.00%	107.50%	135.00%	100.83%
12月	98.55%	98.03%	95.42%	140.32%	133.06%	71.77%
1月	97.84%	99.65%	94.23%	156.45%	122.58%	101.61%
2月	98.18%	99.28%	96.07%	153.57%	133.62%	107.14%
3月	97.52%	96.81%	97.35%	160.48%	129.84%	107.26%
計	98.05%	98.24%	96.68%	135.55%	128.42%	98.22%

④ 年齢別状況

	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	計
男性	0	0	8	15	9	10	11	1	54
女性	0	0	4	10	7	11	9	5	46
計	0	0	12	25	16	21	20	6	100

⑤ 利用期間状況

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	計
男性	5	8	7	15	10	1	0	8	54
女性	4	5	4	8	9	0	5	11	46
計	9	13	11	23	19	1	5	19	100

⑥ 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	2	14	9	29	54
女性	1	7	10	28	46
計	3	21	19	57	100

⑦ ショートステイ（短期）実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
男性	9	9	10	11	11	12	12	10	11	12	11	12	130	151
女性	8	7	7	8	8	8	9	7	8	9	10	9	98	92
計	17	16	17	19	19	20	21	17	19	21	21	21	228	243
利用日数	128	162	156	158	159	164	184	129	174	194	170	196	1,974	1,880

実利用人数：26名(2019年度 30名)

⑧ 訪問の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
延べ人数	5	6	5	32	24	18	28	2	0	0	0	0	120	1,024
実ご利用者数	5	4	5	19	16	11	18	2	0	0	0	0	80	405

⑨ 外出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	95
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	226
実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	/	

※ご親族の葬儀参列のため 実人数 1人(2019年度 65人)

⑩ 外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
外泊延人数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	51
外泊延日数	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	212

※ご親族の葬儀参列のため

⑪ 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
件数	17	20	25	35	37	47	50	29	30	42	32	40	404	645
実人数	15	16	18	27	29	35	32	23	24	30	24	28	301	466

⑫ 入院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020	2019
入院者	7	5	7	6	6	8	10	4	6	6	7	10	82	79
延日数	97	117	55	115	54	111	97	109	59	125	107	134	1,180	1,113

⑬ 事故報告件数

	事故件数	ヒヤリハット件数	施設外医療機関対応 (件)
転倒・転落	57	541	4
服薬	51	259	0
異食	0	10	0
介護	8	16	1
誤嚥	0	25	1
備品破損・紛失	12	22	0
私物破損・紛失	12	72	0
その他	27	251	2
計	167	1,196	8

⑭ 苦情受付件数

	件数
食事に関すること	0
設備に関すること	0
行事・活動に関すること	0
職員に関すること	2
ご利用者に関すること	3
その他	4
計	9

(7) ボランティア活動状況

新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえて、2020年度のボランティア活動は行っていない。

3. 特別養護老人ホーム 和幸園

1. 総括

特別養護老人ホーム和幸園は、法人理念に基づき、人権の尊重を基本とし、ご利用者自身がその人らしい生活を主体的に過ごせるよう、介護の専門性として『水分・常食・運動・座位排便』の4つの基本ケアを中心とする自立支援介護に取り組んできた。それによりご利用者の潜在能力を引き出し、生活意欲の向上、認知症状の軽減、ご家族の満足度向上につながる様々な取組みを実践することができた。

一方で、課題となっている職員体制においては、2020年度の年間退職者数が24名となった。前年度よりは少なく抑えられたが、ケアの質の維持・向上の為には、より一層の職員定着が必要と考える。2021年度も引き続き、職員の定着・育成をベースに基本ケアの理解及び向上などの課題に取り組んでいきたい。

2. 具体的な取り組み

(1) 利用者視点

① 自立支援介護

「自立支援介護 web 研修」に2020年度も参加した。コロナ禍であることと、業務のスリム化のため基本的にはユニットからは、2ユニットで1名の参加で最低7名から、他職種の参加も入れると毎月7～10名程度の職員が参加した。受動的に参加するだけでなく、研修開始前に資料をもとに他の施設の事例報告書の読み合わせをし、課題を抽出して研修に臨み、事例報告をする側でない場合にも能動的に参加するようにした。2021年度より、介護報酬の改定に伴い自立支援的な視点と実践が加算に結びつくようになることから、これまで培ってきた基本ケア理論に沿った自立支援介護の提供に根拠と自信をもって取り組んでいきたい。

② ターミナルケア

現在、ご利用者の方々のさらなる高齢化や入所の長期化等に伴い、年間通して常に15名前後のターミナルケア対象のご利用者がある現状となっている。また、コロナ禍によってターミナルケア以外のご家族の面会は原則禁止となり、ターミナルケア対象者についても、状態に変化がみられたときや終末期を迎えたとき以外は原則控えていただいている。そのため、普段の様子についてご家族に対して定期的な状態報告のほか、2月より「LINE」によるリモート面会や日常の写真をお見せするなどして、ご家族とのコミュニケーションやご家族にご本人の近況を報告する場を設けてきた。そのような環境のなかではあるが、ご本人やご家族の意向に沿った最期のときをお過ごしいただけるよう多職種連携による支援を実施していくことができた。

③ 褥瘡の予防

褥瘡予防委員会を中心に、予防のための皮膚観察や介護方法への専門的な知識と実践ができ、全般的に悪化させることなく支援できている。日々の体位交換や除圧、福祉用具の利用、皮膚状況の観察、失禁の軽減や皮膚清潔のための支援に取り組んできた。また、皮膚トラブル発生時、早期に褥瘡介護計画書を作成することにより、チームでの迅速で適切な対応をすることができ、悪化させずに治癒させることができている。また、理学療法士によるご利用者個々の介助方法の指導や外部講習会を受講した職員による移乗シートや移乗グローブを使った除圧方法などのポジショニング研修を行い、各ユニットで実践している。それは職員の腰痛予防などの介護負担の軽減を図ることにもつながった。2021年度の介護報酬改定では、褥瘡の予防についての加算が、3ヶ月に一回の10単位の算定から毎月3単位または13単位の算定

に変更となった。一層褥瘡の予防に努め、積極的に加算の取得も目指す。

④ 介護事故の減少

事故の総件数は約264件となりこれまでのなかで最少件数となった。このうちおよそ50%である130件が転倒・転落によるものであった。骨折にまで至ったケースもあり、再発防止はしっかりと行いたい。服薬事故は29件1ユニットあたりに換算すると年間で2件程度にまで減少したが、服薬事故に関しては、概ねヒューマンエラーによるものであると同時に、生命の危機にも直結し得る事故になりかねないため、服薬事故0件を目指していかなければならないと考えている。今後も、事故対策委員が中心となり、ヒヤリハット報告を分析、対策を検討するとともに、介護事故の予防のため、適切な介護技術での介護サービスの提供が行われているかを評価し、介護事故の減少に努めていく。

⑤ 感染症予防

2020年度においては、新型コロナウイルスに翻弄された一年となった。その一方でマスク手洗い等の感染症予防の徹底や、外部の出入りの制限等を行うことにより、インフルエンザの罹患者も出なかった。新型コロナウイルスに罹患した職員は1名発生したが、その職員自身のマスク等の予防策ができていたこと、また判明後に早期の対応ができたことにより他利用者・職員の感染はなく感染拡大を防止することができた。しかし、変異型のウイルスを含め、新型コロナウイルスの脅威は未だに続いており、継続的な感染予防対応が必要となっている。その他、これまで通り、ノロウイルスなど、従来からの感染予防対策にも努めていく。

⑥ 身体拘束廃止及び虐待防止

「身体拘束及び虐待防止委員会」を毎月開催した。この一年間、身体拘束、高齢者虐待にともに1件も発生はなかった。毎年新たな職員が入るなか、介護未経験で勤め始める職員もいる。そのため、定期的にまずは何が身体拘束に該当し、何が高齢者虐待にあたるのかを学ぶ機会を提供し、介護者が自身の自覚がないままにそういった行為に繋がっていかないよう意識づけていくことも必要であった。また、従前からの職員にも同様に意識づけを委員会やユニット内会議等で行い、適切な介護が提供されるよう努めていく。

⑦ レクリエーション、クラブ活動の充実

2020年度はコロナ禍につき、多目的ホールで開催されるような規模の大きいレクリエーションや行事を控え、ユニット単位でのレクリエーションや行事に力を入れることにシフトし、理学療法士・作業療法士の協力をもとに質の高いレクリエーションが実施できた。また、ユニット単位でクリスマス会などの行事を行い、各ユニットで趣向を凝らした行事が行われ、レクリエーション、行事ともに「新しい様式」に沿って行うことができた。クラブ活動に関しては全面的に中止となったが、調理レク等、各ユニットにおいてそれぞれ楽しめる活動を提供できた。

⑧ 和幸園だより（広報誌）の発行、Facebookの更新

2020年度はご家族の面会制限が長く実施されたことから、ご利用者にお会いできない状況が長く続いてしまった。新規ご利用者の方に至っては、実際どのような居室で過ごしているのか、どんな雰囲気でも過ごしているのかを目で見る機会も無くなってしまった。これまでも「和幸園だより」に関しては毎月発行し、Facebookに関しては随時の更新をしてきたが、ご家族にとってはこれらが施設での様子を知る重要なツールの一つとなっていたと考える。面会制限が一時的に解除されたときはアクリル板越しの面会を実施したが、札幌市内の感染拡大に伴い再び面会制限を実施した。その後、コロナ禍が継続している状況にあり、ご家族様の面会の制限を続けなければならない状況のため、2021年2月1日より「LINE」アプリビデオ通話機能を用いた「リモート面会」を開始した。これによりリアルタイムでの双方向の会話

を楽しんでいただくことになったほか、写真や動画のやり取りをすることでご家族とのコミュニケーション環境を整えることができた。今後も、社会情勢に合わせた対応を模索しながら感染対策を継続しつつ、ご家族にとっても満足度を少しでも高められるように取り組んでいきたい。

⑨ ご家族との連携

コロナ禍において、施設発信のきめ細かな情報提供がご家族の安心につながる非常に重要な役割を担うようになった。基本的には、ケアプラン更新時、その時のご様子をお知らせするとともに、ご家族のご意向を電話にて確認をしている。また、日常的には、体調などに変動がみられた方に関してはこれまで通りご家族に報告してきた。

介護事故に関しても、軽微なものも含めて報告し現在の状況報告と共に行った。また、コロナ禍においても、ターミナルケアのご利用者に対しては、最期の時期が近付いてきたときのご家族の心情に寄り添って、短時間ではあるが、防護服を着用して頂き居室での面会をしていただくようにした。現在もまだ、面会再開の目途が立っていない状況から、施設側からの情報を必要に応じて適切に提供していくよう努める。

(2) 財務視点

- ① 年間稼働率について、目標稼働率（入居97.90%、短期85.00%）に対して、本年度は入所97.23%（116.68名）、短期93.4%（18.68名）の結果となり、入所は目標稼働率にわずかに及ばなかったが、短期入所は2019年度に続き目標を上回る結果となった。入所稼働率に関しては、ご利用者の入院等による実績の一時的な低下はみられたが、現在すでに短期入所されている方に入院者ベッドの空床利用をしていただくことで、コロナ感染予防をしつつ、入所稼働率を短期入所稼働率で補い全体的な稼働率低下の防止に努めた。新入居者の確保については、新型コロナウイルスの影響により、病院や老人保健施設等にいる方へのインテークが実施できない時期もあったが、短期入所利用者の施設入居等もあり、その一部を補うこととなった。短期入所の稼働に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、入居後、一定期間、リスク回避のため居室でお過ごしいただくことをお願いしてきた。それにより短期入所の利用がキャンセルになったこともあった。しかし、相談員と介護員と看護師との話し合いのもと、新型コロナウイルス感染のリスクを回避しながらできるだけ短期入所を必要としているご利用者が受けられるよう、利用前1週間程度の体温把握や家族も含めた行動履歴の情報収集などの方法を探りながら運営してきた。それらの地道な運営で、長期の短期入所利用者の平均的な確保ができたとともに、担当スタッフによる日頃からケアマネジャーとの良好なコミュニケーションときめ細かなアナウンスが、コロナ禍でも高い稼働を維持できたことにつながった。
- ② 個別機能訓練加算の取得に関しては例年通り確実適正な算定の継続ができた。2021年度からは新たに個別機能訓練加算Ⅱが新設され、「LIFE」の活用により積極的な算定を進めていきたい。
- ③ 協力医療機関、看護師等との連携により、和幸園で最期のときを過ごすことを望むご利用者やご家族の希望に沿えるよう最後まで尊厳をもった質の高いケアを行い、看護体制加算を適正に算定できた。
- ④ 管理栄養士、調理師との連携により、胃ろうのご利用者の経口摂取や常食への移行を慎重かつ積極的に取り組み、食べる楽しみの向上を図ることができた。栄養ケアマネジメント加算取得全利用者から算定出来た。2021年度から栄養マネジメント加算が基本単価に吸収される形となり、算定することはできなくなるが、管理栄養士を増員し体制を整えて、新たに栄養マネジメント強化加算取得を目指すことで栄養管理の質の向上も目指していきたい。

- ⑤ 訪問歯科医との連携により、ご利用者の口腔ケアの充実を図り、誤嚥性肺炎を防ぎ、長く経口摂取できることで、口腔衛生管理体制加算は全ご利用者から・口腔衛生管理加算に関しては月平均20名程度に対して算定した。経口維持加算Ⅰ・Ⅱに関してはフードテストの方法を見直し、先行期リスクや食物残渣の一時的に50%台まで下がった算定率を70%台まで回復させた。
- ⑥ 褥瘡マネジメント加算については、諸事情によりこれまで算定していなかったが、2021年度から算定方法が変更となったことから、現在行っている褥瘡等に関するケアを根拠に適正な算定を進めるとともに、さらにケアの向上を図り、上位加算の算定を目指していきたい。
- ⑦ 排せつ支援加算については、これまでの6ヶ月限定の算定ではあったが、2021年度からは、月の算定単位数が減額となったものの、毎月算定が可能となったため、改めて確実な算定要件のもと加算の取得を進めていきたい。
- ⑧ 電気、水道、光熱費、日用品費等の節減への取り組みについて、電気、水道、光熱費に関しては、日常的に意識して使いすぎには注意しているものの、暖房を使用する冬期の電気消費量は契約電気容量に迫るものがあつた。日用品については、かねてから裏紙の使用をはじめ「無駄遣い」に対する意識をもって抑える努力はしていた。
- ⑨ 看取り介護加算に関しては、医師及び医務の適切な判断と指示により、現在18名のターミナルケア対象者がおり、2020年度は8名のご利用者がターミナルケアにより最期を迎えた。介護職員をはじめ、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、生活相談員が連携してご利用者、ご家族に寄り添った対応ができるよう、随時プランの見直しを行い、実践できた。
- ⑩ 排便コントロールのための個人使用のオリゴ糖・ファイバー・ビフィズス菌等について、継続することで効果がみられてきているため、ご利用者個々の負担として準備いただくように説明し、個々で購入いただくこととした。それにより、2020年11月から2021年3月まで、約50万円（月平均10万円弱）の施設経費を抑えることができた。

(3) 人材視点

- ① 職員の充足及び定着率向上については、2020年度は過去3年間のなかでもっとも少ない24名の退職であった。人数だけでみると過去2年間（各30名以上）との比較で減少したが、同一フロアで退職が続いたことなど課題は残った。2020年4月に入職した介護科学校卒の職員4名は、福祉・介護に対する知識・技術、倫理観等の基礎がしっかりとできており、期待以上の活躍を見せてくれている。今後の新卒者採用にも期待をしていきたい。現在の人員配置は、人件費率でいうと、現在の雇用人数が上限となっている。それでも時間外の発生が必要となることも今後対応が必要である。介護職員に関しては、ユニットに分かれているためパート職員の組み合わせや希望休み等の関係で、残業が必要になることが発生することもあり、過度になると職員のストレスと疲労感に繋がる心配がある。その対応として2020年度は、和幸園事務所スタッフ及び機能訓練士らによるユニットフォローでカバーするなどして特定の職員に時間外が多くなりすぎないように配慮してきた。今後も、体調不良者などお休みの職員が発生したとしても負担を分担できるよう、ユニットだけではなくフロアでの協力体制の構築や業務内容の見直しを行い、休憩時間の取り方の工夫をするなど、単純に人を増やすという方法以外の形でサービスの質を落とさず、且つ介護職員の負担軽減を図っていくことが望まれる。
- ② 認知症介護実践研修は数名の職員が参加できたが、新型コロナウイルスの影響により認知症リーダー研修への参加は実現していない。今後の研修の開催予定に合わせて、参加を検討していきたい。

- ③ 4月評価と10月評価の定期面談のほか、主任等の役職者が、悩みを抱えている職員をいち早くキャッチし対応をすることによって退職に踏み切らずに留めることができるケースもあった。また、虐待を疑われる場面について、ユニット会議などで話し合える職員同士のつながりや、役職者も相談しやすい環境を作ることを実践してきた。
- ④ プリセプター制度や新人研修により、具体的な達成度を確認しながらの教育や初めての仕事に関して理論的な内容とともに業務マニュアルをマスターしていける仕組みが整っている。新人職員が、自身の悩みを、指導者だけではなく、リーダー、主任と多様に相談できる体制を今後も整え、定着を図る。
- ⑤ 和幸園に求められるリーダー像を明確に伝えることによって、リーダーとしての役割を本人が理解して業務の遂行ができるようにしている。また、主任が中心に相談を聞くなどして育成している。また、他上席者も、ユニット会議などでの状況を見ながらアドバイスして、リーダーが自身の力を向上できるよう、今後も支援していきたい。
- ⑥ 優秀な人材の確保に向けて、実習先としての受け入れをはじめ、福祉専門職養成機関との連携体制は整えているが、2020年度に関しては、新型コロナウイルスの影響により実習生の受け入れ自体は中止した。今後も継続的な連携を図り、双方にとって良い関係を保っていききたい。
- ⑦ ワークライフバランスの推進のため、「週に1回のノー残業デイ」「付与日数分の50%以上の有休消化」「7連休特別休暇制度」を実施継続している。そのほかストレスチェックの実施率も90%を超えた。コロナ禍によりストレスも多いため、職員への声掛けを多くするなどして、今後も話しやすい環境を整えていきたい。また、育児をしながら働く女性を応援するために併設された保育園を利用し、活躍している職員も増加している。今後も可能な範囲で、職員個々にとって働きやすい職場環境作りに配慮していきたい。

(4) 地域貢献

- ① 2015年から2019年まで続いていた「認知症状改善塾」も2020年度は新型コロナウイルスの影響により中止した。
- ② 見学等においても、ユニット内の見学は控えていただく形で最小限の方法での対応とした。ホームページやFacebook、和幸園だより等で、施設の活動内容や日常生活の様子を発信は継続していた。
- ③ 実習生の受け入れに関しても、新型コロナウイルスの影響により2020年度の介護実習は中止。社会福祉士の本実習の前段階の「入門実習」に関しては、施設内ではなく、オンラインによる「リモート実習」として本来の期間を短縮して7日間のところを3日間に対応した。2021年度に関しては、先日の経営者会議で少なくとも8月末までは実習の受け入れを行わないとの方針が決定された。以降は今後の社会情勢と照らし合わせながら検討していくこととなる。
- ④ 幼稚園、地域ボランティア及び団体の協力や地域行事への参加についても、新型コロナウイルスの影響により幼稚園の園児による慰問は中止、ギター演奏ボランティアも中止、日赤奉仕団石山分団様による作業奉仕活動も中止、石山の文化交流祭や、芸術の森音楽祭、石山北公園の夏祭りのへの参加の中止など軒並み中止となった。今後は、社会情勢と照らし合せての対応となる。
- ⑤ 石山8区の清掃活動についても、新型コロナウイルスの影響により参加を見送った。
- ⑥ ハピニス祭に関しても、新型コロナウイルスの影響により開催が見送られた。
- ⑦ 低所得者への利用料減額支援については、社会福祉法人の使命として、社会福祉法人減免制度を活用し、2020年度実績は法人負担額8,126千円（うち補助金3,563千円）となった。

- ⑧ 緊急保護ケースでは、南警察署の要請で同居の息子からの暴力から逃れた高齢女性の受け入れを1件、中央区で無銭飲食保護された高齢者の受け入れを行った。
- ⑨ 「介護何でも相談」は新型コロナウイルスの影響により2020年度は実施できなかった。

(5) ガバナンス体制の強化

- ① 介護保険の制度改正に関してはスタッフ同士の確認作業や、介護ソフト提供のサンコー情報システム様との連携により変更点等には迅速な対応を行っている。2018年度の改定当時に新たに取得することとなった『排せつ支援加算』については、算定対象者の選定の際に算定要件の解釈の誤りにより多くの過誤申請することとなった。2021年度の介護報酬改定に伴う算定に関しては算定要件をしっかりと確認し、確実な加算の取得に向けて取り組んでいきたい。
- ② 令和元年度の札幌市の実地指導に指摘・助言を受けた点は指導後に対応しており、現在は指導に基づいた施設運営を継続している。
- ③ 介護保険制度に即した契約を締結し、適切なサービスの提供を継続している。
- ④ コンプライアンスに基づいたケアプランの作成とご家族への説明・同意を行った。
- ⑤ 計画書は更新すべきタイミングで適切に作成し、説明と同意の確認も行っている。ご家族からの返送を要する書類等で返送が滞っている場合は、再度の電話や来所時にお伝えするなどの対応を行っている。

3. 事業運営状況及び事業実績

(1) 職員の配置状況

2021年3月31日現在

職名	配置基準数	現員数	備考
施設長	1	1	
事務員	必要数	6	
生活相談員	2	4	介護支援専門員兼務1名
介護支援専門員	2	2	生活相談員、介護職員と兼務
介護員	47 (常勤換算)	103	介護支援専門員兼務1名 非常勤職員41名
看護職員 (看護師)	5	11	グリーンハイム兼務
医師	必要数	1	配置医
機能訓練指導員	1	2	非常勤職員1名
管理栄養士	1	1	
管理員	必要数	1	
外勤調整員	必要数	1	
計		131	

(2) 介護・看護職員配置比率 (定員/入居120人、短期20人)

職種	常勤換算 (人)	算出基準	配置比率
介護職員	83.25	140人/88.25人 (基準140人/3=46.6人)	1.59人
看護職員	5.0		
計	88.25	2020年度 利用者数実績 入居116.68人 短期18.68人	

※ 基準では入居者数を3.0で除した数値以上となっている。

(3) ご利用者状況

① 入居者状況

	2020年3月31日	入居者	退居者	2021年3月31日
	在籍者			在籍者
男性	27	13	8	32
女性	93	19	23	89
計	120	32	31	121

② 月別平均入居者数

	入居			短期		
	2020年度	2019年度	2018年度	2020年度	2019年度	2018年度
4月	97.06%	94.50%	96.64%	103.50%	98.50%	101.00%
5月	96.08%	96.45%	96.56%	105.65%	102.10%	100.00%
6月	97.44%	97.64%	96.36%	98.50%	102.67%	94.50%
7月	97.55%	97.26%	97.47%	96.94%	106.13%	88.23%
8月	97.63%	98.47%	98.06%	100.65%	101.29%	102.26%
9月	97.72%	97.44%	97.78%	97.00%	97.17%	90.83%
10月	97.69%	97.20%	98.55%	94.68%	102.10%	90.65%
11月	98.75%	96.36%	97.89%	90.67%	95.00%	92.67%
12月	96.77%	92.96%	98.09%	87.90%	112.47%	92.26%
1月	95.73%	92.80%	95.40%	87.90%	115.97%	98.55%
2月	97.23A%	95.49%	97.17%	76.43%	101.38%	96.96%
3月	97.10%	96.96%	96.08%	80.97%	88.23%	96.45%
計	97.23%	96.13%	97.17%	93.40%	101.92%	95.36%

③ 退居理由

2020年度	男	女	計	2019年度	2018年度
死亡	4	18	22	27	17
長期入院	4	5	9	10	14
家庭引取	0	0	0	0	0
他施設へ移動	0	0	0	0	1
計	8	23	31	37	32

④ 年齢別入居者状況

(2021年3月31日現在)

	65歳未満	65～74	75～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男性	1	5	7	9	8	2	0	32
女性	0	4	26	19	25	11	4	89
計	1	9	33	28	33	13	4	121

⑤ 入居者の入居前居所状況 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	男	女	計	2019年度
自宅	10	14	24	22
介護老人福祉施設	0	0	0	0
介護老人保健施設	1	1	2	8
介護療養施設	0	0	0	0
医療機関	2	4	6	9
他の福祉施設	0	0	0	0
計	13	19	32	39

⑥ 月別入院状況 (月延べ人数)

入院状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2019年度
入院者数	7	9	9	7	6	7	7	5	7	8	7	6	85	48
入院延日数	114	153	113	140	141	147	138	84	129	142	145	141	1,587	1,216

⑦ 入居者の要介護度

(2021年3月31日現在)

要介護度 性別	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	計
男性	0	0	8	16	8	32
女性	0	2	26	29	32	89
計	0	2	34	45	40	121

⑧ 事故報告件数

	事故件数	施設外医療機関対応 (件)
転倒	130	24
転落		
あざ	39	4
外傷	18	1
服薬	29	16
異食	5	0
誤嚥	6	4
皮膚剥離	16	0
その他 (ヒヤリハット含む)	13	0
計	256	49

⑨ 苦情受付件数

	件数	
	2020 年度	2019 年度
介護等に関する事	0	3
設備に関する事	0	0
職員に関する事	0	0
その他	1	0
計	1	3

4. 年間行事報告

日程	内容	備考
2020年 5月27日	ジンギスカン	ユニットにてジンギスカン・ちゃんちゃん焼き
8月31日	1条夏祭り	1条短期利用者に対して感染対策をとりながら実施
9月14日、15日、 16日、17日	敬老祭	敬老をお祝いし、祝寿対象者などへ記念品の贈呈、スライドショー、食事会を実施。 コロナ禍により、感染対策を強化、例年より人数を少なくするため6回に分散して実施。
11月20日	秋の美味しいもの祭	石狩汁や栗ご飯を調理し、召し上がって頂く
12月24日	クリスマス会	クリスマス会をユニット毎に実施 クリスマスにちなんだ催し物など披露
12月28日	餅つき	ユニットを巡回しご利用者と職員と一緒に餅つき
2021年 1月、2月	のど自慢大会	ユニット単位でのミニのど自慢大会 1月5日 2条3 1月6日 2条2 1月7日 3条2 1月8日 2条1 1月14日 4条4 1月15日 3条3 1月18日 1条1 1月19日 4条1 1月21日 3条4 2月16日 1条2 1月29日 4条3 2月3日 3条1 2月4日 4条2
2月17日	寿司の日	ユニットにてお寿司を召し上がっていただく行事
2月2日	節分	ユニット毎に豆撒きを実施。
3月17日	鍋の日	ユニット内にて「すき焼き・寄せ鍋」を実施

※コロナ禍において、集団での行事や外出関係の行事の実施は中止となった。

4. 看護係

1. 事業報告総括

(1) 利用者視点

- ① ご利用者には、日々はリーダー業務の看護師やフロア担当看護師が意図的にコミュニケーションを図り、問題解決に努めた。また、ターミナル期のご家族とは、担当看護師を明確にし、信頼される関係の構築に努めた。
- ② 配置医師とは、ご利用者の体調変化について電話等で相談連絡し対応して頂いた。配置医の健康問題で往診件数は減少したが、定山溪病院の協力もあり利用者様へのサービスの低下を防ぐことができた。また、新型コロナ感染症の拡大に伴い受診頻度が減少した。協力医療機関とは、入院相談を含め連携し協力が得られた。
- ③ ターミナルケアについては、和幸園で2020年度は10名を看取り、定期的な会議や評価等を他職種協働で取り組むことができた。また、グリーンハイムでは、2020年度は2名の看取りを行った。今後もご利用者のニーズに合わせ、可能な範囲でのターミナルケアに取り組んでいきたい。2020年度はコロナ禍での面会制限があるなかで、ご家族やご本人の満足度をどう高めていくか悩みながらすめた一年であった。
- ④ 虐待、事故防止、感染症対策、褥創防止委員会へ参画し、専門性を発揮した。ただし、2020年度は新型コロナウイルスの対策により、集団研修が開催できなかった。服薬事故の対策については、複数科受診のご利用者が多くリスクが高いため、事故防止に向けた啓蒙活動、対策の徹底に今後も取り組んでいく。

(2) 財務視点

- ① 物品の在庫管理を行い、適正量の購入を行った。今後、災害に備えた物品の保管にも取り組んでいく
- ② 緊急のショートステイに対し、情報等が少ない中でもご利用者の安全に配慮し、柔軟に対応した。

(3) 人材確保と育成

- ① 集団研修が開催されない中で、リモートの研修にも参加したが、全体としては研修自体が少なくなった。
- ② 5～7日間の連続休暇取得は、職員個々の希望により年間計画を作成し、スムーズに取得することができた。
- ③ 看護係内の担当委員の変更により個々の役割の幅を広げるとともに、多職種のなかで指導的役割を担った。
- ④ 夜勤専任の看護師2名を採用すること、日中の会議に出席しやすくなった。

(4) 地域貢献

例年の地域のゴミ拾いやお祭りへの救護班の派遣はコロナ禍の影響で実施できなかった。

(5) ガバナンス体勢の強化

組織の理念・方針を全員が理解し、行動できるように取り組んでいる。今後、法人の行動指針を基礎として取組みを強化していきたい。

2. 医療業務実績

和幸園は排便コントロール目的での浣腸の件数が増加し処置件数が年々増加している。胃ろう栄養は2名で維持している。ターミナルでの死亡者は前年より減少しているが、早めにターミナルの説明をご家族に行うようになり、スムーズに移行できている。今後も死亡での救急搬送を減らせるように取り組んでいきたい。

短期入所はロングショート者が多くなり、全体の件数は減少しているものの、医療ニーズの高い方も利用されているので、看護業務は煩雑となっている。

グリーンハイムは、胃ろう栄養のご利用者が7名から減少しており、短期の方を受けても余裕をもって対応できている。処置件数も大きな変動はなかったが、新型コロナ感染予防のため、和幸園とグリーンハイムの看護師は別に業務を行う体制としたため、曜日毎に業務を整理し配置を変更し対応した。

本年度は新型コロナの影響で、通院や受診拒否もあり受診件数が減少した。発熱の受診に関しては、発熱外来や保健所への連絡や調整に時間を要し、救急車で搬送先を決めてもらうなど、通常より業務が煩雑となった。往診もコロナの濃厚接触者の隔離等もあり全体に件数は減少した。

和幸園 2020年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	330	362	335	358	391	365	414	389	446	422	430	391	4633	4833
	夜勤	5	7	7	3	5	3	4	2	6	7	4	2	55	64
尿片管理者(人)		6	6	6	6	6	5	5	5	6	6	6	6	69	57
胃瘻管理	入所	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	22	20
インシュリン等(人)	入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
処置	人数	37	42	43	39	40	50	55	57	54	51	55	52	575	489
	件数	402	406	754	501	489	541	590	573	582	522	535	509	6404	4947
ターミナル		1	0	1	1	2	0	0	0	2	1	1	1	10	15
入院者		4	3	4	3	2	2	2	3	4	4	3	1	35	47
他機関受診		24	17	28	29	41	31	29	24	25	26	28	38	340	501
ショート利用		62	55	60	62	65	51	51	38	50	52	41	50	637	959
ときわ往診		20	19	21	19	19	19	20	21	21	21	21	22	243	200
川沿皮膚科往診		76	119	72	127	109	108	113	0	109	108	55	111	1107	1749
南札幌脳神経往診		33	42	50	49	53	59	18	16	10	15	24	14	383	738
定山溪病院往診									14	15	13	18	17	77	
待機出勤		3	5	4	3	4	2	0	0	2	3	3	1	30	28
救急搬送(ショート)		1	0	1	0	0	1	3	3	3	1	1	0	14	14

グリーンハイム2020年度															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
状態観察者	日勤	306	374	385	398	395	411	409	383	352	335	349	311	4408	3840
	夜勤	258	276	301	286	303	316	330	288	266	256	248	210	3338	3860
尿片管理者(人)	入所	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	12	12	147	147
胃瘻管理(人)	入所	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	4	5	76	81
インシュリン		2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	28	45
処置	人数	20	22	22	19	20	20	20	20	19	19	20	19	240	232
	件数	312	351	347	261	309	294	319	272	297	302	257	149	3470	3764
短期処置(件数)		11	20	22	17	17	21	16	18	18	19	12	18	209	185
入院者		2	2	2	6	2	5	5	2	0	4	2	8	40	44
他機関受診		18	23	34	41	51	51	53	33	31	46	41	51	473	643
ショート利用		38	44	44	41	43	43	48	35	38	39	40	45	498	536
ときわ往診		20	20	21	18	18	17	17	17	19	19	19	19	224	243
やまはな皮膚科往診		23	28	28	23	39	37	31	35	33	33	26	36	372	357
川沿皮膚科往診		69	36	75	34	74	74	68	33	36	63	35	56	653	717
南札幌脳神経往診		39	24	33	32	34	19	16	14	14	8	5	6	244	378
夜勤者受診の付添											1		1	2	1
施設内での死亡					1				2					3	1

5. 栄養係

1. 事業報告総括

(1) 利用者視点

- ・委託業者所属栄養士、調理員との連携を密にして、ご利用者・施設の要望として特色あるイベントを実施できた。
- ・感染症予防の観点から定期的な全体ミーティングを中止し、日々のコミュニケーションを強化した。
- ・栄養ケアマネジメントを行い、個々人にあった栄養ケアの提供を遂行した。

(2) 財務視点

- ・加算の確実な実施を行うことができた。今後も継続して行っていく。
- ・追加（栄養）食品を無駄の無いよう支出管理を実施している。
- ・物品の購入、修理、行事等、予算に合わせて計画的に実施できた。

(3) 人材確保と育成

- ・研修、勉強会は各自のスケジュールに合わせて参加できている。今後も積極的な参加をして、最新の情報の取得に努める。

(4) 地域貢献の推進

- ・入居者、ショートステイ、デイサービスご利用者、ご家族、地域の方々の栄養相談を実施した。

(5) ガバナンスの強化

- ・本年度は両施設でノロウイルス疑いの発生があり、対応を実施した。実際に運用した際の経験を活かし、より実践的なノロウイルス対策マニュアルを策定するための見直しを実施中である。
- ・適宜他職種との連携を図り、栄養ケアマネジメントを実施している。

(6) その他取組、行事

- ・食事形態、食事のおいしさの向上など、委託業者と適宜相談し実施している。さらなる向上を目指す。
- ・ご利用者の前で調理をするイベント（寿司、てんぷら、手打ちそば）は好評であった。今後も実施の継続し、また、他のイベントも考案していきたい。

【グリーンハイム】

- ・入居者の体調に応じた食事・間食に関する内容等、ご本人に納得して頂けるよう寄り添いながら、栄養計画書を作成し、遂行した。
- ・感染防止対策として、厨房・事務所・食器・配膳車等の消毒・掃除等の啓蒙とその徹底を図り、今後も感染防止に努めていく。

【和幸園】

- ・多職種との連携方法の工夫を続けることができた。排便対策やその他の業務に関しても、「勉強、実践、観察、評価を踏まえて対策を考案する」ことを引き続き実施していきたい。

(1) 一食平均食数

区 分		食数
グリーンハイム	入居	97
	短期入居	3
生活介護事業所グリーンハイム		13
和幸園	入居	115
	短期入居	20
和幸園デイサービス		38
計		286

(2) 食事形態

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
常食	40	75	115
やわらか食	31	21	52
ゼリー食	11	19	30
胃婁	1	3	4

(3) 特別食

内 容	グリーンハイム	和幸園	計
糖尿病	8	14	22
脂肪制限	3	0	3
心臓病	0	6	6
腎臓病	3	2	5
貧血	0	0	0
低残渣食	0	0	0
計	14	22	36

(4) 年間行事実績及びポイントメニュー

月	行 事	ポ イ ン ト メ ニ ュ ー
4	和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯 各地のご当地メニュー
5	子供の日(5日) 和幸園デイサービス誕生会 ご当地メニュー(昼)	赤飯、筑前煮、さくら漬け、水ようかん ちらし寿司 各地のご当地メニュー
6	和幸園デイサービス誕生会 和幸園ジンギスカン・チャンチャ ン焼き グリーンハイム・和幸園 天ぷらバイキングの日	赤飯 ジンギスカン・チャンチャン焼き 天ぷら(えび・きす・なすび等)、うま煮、フルーツ、サラダ 等
7	土用の丑の日 グリーンハイム焼き肉昼食会 和幸園デイサービス誕生会	うなぎちらし、すまし汁、 焼き肉 ちらし寿司
8	和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム焼肉昼食会 グリーンハイムデイサービス焼き肉	赤飯 焼き鳥 焼き肉
9	敬老の日 グリーンハイムデイサービス焼き肉 和幸園デイサービス誕生会	赤飯、煮しめ、焼き魚、てんぷら、茶碗蒸し、なます、お吸い 物 焼き肉 ちらし寿司
10	和幸園 秋の味覚祭 和幸園デイサービス誕生会 グリーンハイム蕎麦の日	さんまの炭火焼き、ジャガイモ、サツマイモ、かぼちゃ、豚汁 赤飯 手打ち蕎麦を楽しむ
11	グリーンハイム寿司の日 和幸園芋煮会 和幸園デイサービス誕生会	握り寿司(マグロ、サーモン、カレイ、ツナマヨ、とびっこ、 エビ、ホタテ、イクラ、玉子、いなり) のっぺい汁、栗ごはん、鮭ときのこのホイル焼き ちらし寿司
12	グリーンハイム・和幸園クリスマス 会 餅つき大会 大晦日(31日) 和幸園デイサービス鍋の日	オードブル・ケーキ等 納豆餅、お汁粉 年越しそば、黒豆等 寄せ鍋
1	元旦(1日) 三が日 七草(7日) 鏡開き グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園寿司の日 和幸園デイサービス誕生会	おせち料理 雑煮、お寿司等 七草(七草粥) お汁粉 寄せ鍋・すき焼き 握り寿司(マグロ、サーモン、エビ、イクラ、玉子、いなり等) ちらし寿司
2	節分 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	太巻き、いなり 寄せ鍋・すき焼き 赤飯
3	ひなまつり(3日) お彼岸 グリーンハイムデイサービス鍋の日 和幸園デイサービス誕生会	ちらし寿司、すまし汁(アサリ、三つ葉)、炊き合わせ、イチ ゴ饅頭 手作りおはぎ 寄せ鍋・すき焼き ちらし寿司

6. 訓練

1. グリンハイム機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別評価を行い、リハビリテーション実施計画書を作成し、ご本人またはご家族のニーズを汲み取り、個別訓練や機械器具を用いた自主訓練なども盛り込み実施した。また、日々の業務やご利用者の経過記録の整備を行った。
- ② ご利用者の入れ替わりが多く、状況を見ながら新規のリハビリテーション実施計画書を作成した。
- ③ 個々のニーズによっては、和幸園作業療法士に相談し訓練を行った。
- ④ ご利用者の生活状況などを把握した上で、継続可能な生活リハビリの助言・提案を行った。
- ⑤ 車いすや補装具などを使用し、安全・安心な生活を維持し、有意義な時間を過ごせるように支援した。
 - ・車いすカンファレンスを定期的で開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
 - ・義肢装具カンファレンスを不定期で開催し、個々のニーズに合わせた修理や各種申請を支援した。
- ⑥ ご利用者個々のニーズに合わせた福祉用具（ポジショニング枕・福祉靴・自助具など）に関する助言・提案を行った。
- ⑦ ご利用者の各種診断書類（医師意見書・補装具費申請書類など）の理学療法評価部分の作成を行った。
- ⑧ 個別訓練のみならず、集団訓練も継続して行い、他ご利用者との関わりを持つ機会を提供し、社会性を保持するよう支援した。ご利用者個々の特性を活かし、役割を持てるよう支援した。
- ⑨ 生活リハビリにつながる介助方法を介護職と検討し、助言・提案を行った。
- ⑩ ご利用者個々の状況に合わせた創作活動（脳トレプリント・料理レシピ・カレンダー・折り紙作品・塗り絵・貼り絵など）を提案し、作品の作製を行い、ご本人の希望に合わせて展示などを行った。
- ⑪ 日常生活動作の介助法や適切な動作などを実際場面でのデモンストレーションを交えて助言・提案を行った。また、ご利用者・介護者に負担が少ない方法や介護用品（スライディングシートやボード・グローブなど）を提案した。
- ⑫ リスクマネジメント委員会に参加し、事故の再発防止策などの検討を他職種協働で行った。
- ⑬ 虐待防止委員会に参加し、虐待防止のための意見交換やアンケート実施に携わり、結果をまとめる作業を委員チームとして行った。
- ⑭ 接遇委員会に参加し、接遇目標を掲げて、取り組んだ。
- ⑮ ターミナルケアチームの一員としてカンファレンスに参加し、理学療法士としての専門性を活かしたポジショニングの提案を行う他、多職種での検討に取り組んだ。

(2) 参加者年間集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運動療法	集団訓練	32	43	42	27	46	27	44	38	29	40	47	28	443
	個別訓練	164	145	169	116	162	161	145	159	156	152	156	148	1,833
参加総延べ人数		196	188	211	143	208	188	189	197	185	192	203	176	2,276
リハ日数		20	17	19	14	19	20	18	18	19	18	18	18	218
1日平均延べ人数		9.8	11.1	11.1	10.2	10.9	9.4	10.5	10.9	9.7	10.7	11.3	9.8	10.4

※集団訓練は、グループ単位で座位姿勢のままできる運動や反応引き出しを持つ機会としても行った。

※リハ日数は、個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

※個別・集団ともに換気や消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策に十分配慮し実施。

2. 和幸園機能訓練

(1) 事業報告総括

- ① 個別機能訓練計画書及び実施表の作成、実施状況確認、ファイルの記入など記録の整備を実施した。
- ② 自立支援・オムツゼロの推進による離床時間の拡大に伴い、車いすや椅子座位での安全なシーティングの検討を行い、座や背クッションの調整と必要に応じて姿勢改善のためのクッションの検討を行った。必要に応じて業者とシーティング調整を実施した。
- ③ 必要に応じて個別の対応を実施し、身体機能・残存機能の向上につながる訓練を行った。
- ④ 褥瘡対策のために福祉用具業者とのリモートワークに参加した。また、臥床時のポジショニングやマットレス・クッションなどの選択と検討を行い、体交の参考として個別の資料を作成し介護職へ伝達した。褥瘡委員会や現場で動作指導なども実施した。
- ⑤ 摂食・嚥下困難者に対し、嚥下状態の確認や食事動作や自助具の検討、口腔マッサージの実施及び介護場面での口腔マッサージ資料の作成を行った。また、嚥下体操や発声練習を介護職に伝達した。
- ⑥ 経口維持加算のための食事評価（フードテスト）を実施し、評価表を作成した。
- ⑦ 車いす等の福祉用具の検討を実施した。車いすクッションや車いすの修理依頼や個別購入に対する物品の機能選択を実施した。靴や靴下に関する相談に応じ、物品の選択や注文・納品後の適合チェックを実施した。
- ⑧ トイレ介助方法の検討、ポータブルトイレの高さ確認、トイレ介助の補助など実施した。
- ⑨ 移乗介助方法の指導、スライディングシートやポジショニンググローブなどの福祉用具の使用法の指導を行った。
- ⑩ コロナ禍のためユニット単位での集団レクリエーションを実施した。年間行事の『のど自慢大会』もユニット単位で実施した。
- ⑪ DVD貸し出しシステムを維持し、映像ソフトを増やした。また介護員に協力してもらい歌謡体操動画DVDを作成し各ユニットへ配布した。
- ⑫ ご利用者様の生活歴などを把握し、利用者様ごとの余暇活動を検討し、物品選択や作業援助を実施した。
- ⑬ 装具の作製及びチェックアウト、修理を専門業者と共に評価したうえで実施した。
- ⑭ 新人研修として、移動移乗の座学および実技の担当を行い、新人職員の指導を実施した。
- ⑮ 各行事・ユニット内行事の設営や準備・実施の協力を積極的に行った。
- ⑯ 移乗介助機器や介助負担軽減機器の導入検討に協力し、必要ユニットで活用できるよう指導を行った。

- ⑰ ショートステイ利用者及び入居者の自宅外出・外泊などにおける移動手段や動線確認、ご家族への指導のための自宅訪問を実施した。
- ⑱ 運動機会の確保を目的（動機づけ）として、各フロア廊下に季節やテーマごとのご利用者様参加型の壁面飾りを実施した。
- ⑲ 各ユニットの欠員補助のため介護業務補助を行った。
- ⑳ 施設取り組みのアピール（福祉用具導入・基本ケアの取り組み）としてローカルラジオ出演・介護新聞掲載に協力した。
- ㉑ 各委員会に所属し専門職としての意見や助言を行った。事故対策では現場において対策の検討を行った。
- ㉒ 各種書類（医師意見書・補装具費申請書類・ケアプランなど）のリハビリ評価部分の作成を行った。
- ㉓ 次年度ショートステイ個別機能訓練加算算定のための居宅訪問や評価用紙、計画書作成を行った。

（２）参加者年間集計表

*は平均

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別 訓練	入居	74	72	87	108	82	52	77	79	45	40	46	51	813
	ショートステイ	66	73	79	77	74	72	70	55	61	39	65	77	808
	1日平均人数	6.4	6.9	7.5	9.3	7.8	6.2	5.9	6.4	5.3	4.2	6.2	5.8	*6.5
集団 訓練	入居	203	137	147	178	162	104	150	126	186	78	122	154	1747
	ショートステイ	38	55	40	33	18	14	31	17	21	5	24	21	317
	1回平均人数	17.2	16.0	17.0	17.6	18.0	16.9	16.5	17.9	18.8	10.4	14.6	14.6	*16.3
リハ日数		22	21	22	20	20	20	25	21	20	19	18	22	*20.8
参加延べ人数		381	337	353	396	336	242	328	277	313	162	257	303	3,685

- ・個別訓練：個別の対応を実施。基本的な身体機能維持のための関節可動域訓練、筋力維持向上訓練、座位保持、座位や立位でのバランス訓練、歩行訓練、呼吸訓練、ADL訓練としては、移乗動作訓練、起居動作訓練、車いす駆動やトイレ動作訓練、歩行器歩行、摂食嚥下向上のための口腔マッサージや食事動作練習、認知機能維持のための脳トレ（パズル・マッチング・漢字・計算・歌など）
- ・集団訓練：各ユニットにおいて作業療法士中心に実施し、リハビリテーションの視点を考慮した体操、ゲーム、嚥下体操や発声練習、音楽歌唱など

※2020年度は集団レクリエーションの方法変更し各ユニット内で1ユニットずつとした。それに伴い延べでの参加人数は減少しているが、個人での参加回数・開催回数は減少していない。個別訓練に関してもOT担当のショートステイ・入居者への訓練数が大幅に増加している。

※リハ日数は、理学療法士・作業療法士が個別訓練に従事した日数（会議・書類整理・レクは含まず）

※個別・集団ともに換気や消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策に十分配慮し実施

7. 相談支援事業所グリーンハイム

1. 基本方針

障がい種別、障がいの程度に関わらず、各々が望む当たり前の生活の実現のため、相談支援専門員としての知識、技術、ネットワークを活用し、フォーマル、インフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせた相談支援を実践する。また、計画相談件数、地域移行支援件数を伸ばし、経営的にも健全な事業所運営ができるように相談者の確保に力を入れ、札幌市内において、質・量ともにトップクラスとなるような事業所運営を目標としていく。

2. 2020年度実績及び、具体的な取り組み

(1) 2020年度月平均

月平均68ケース（計画、モニタリング）となり、当初目標としていた月平均65ケースを上回る結果となった。

この結果の要因として、他入所施設の計画相談、今まで関わっていた事業所からの新規相談が定期的にあった。今まで、丁寧かつ利用者・事業所に合わせた相談支援によって信頼関係を構築することができているためと考えている。

(2) 相談ケース確保のための具体的な取り組みについて

- ・委託相談室と適時連絡を取り合い、いつでも相談できる体制の確保に努め、相談支援専門員が安心感を持ったうえで、相談支援を行った。また、新型コロナにより、激減したが事例検討会を開催し、より強い信頼関係を築くことができている。
- ・南区地域部会の部会長として、南区内の活動の検討や札幌市のプロジェクトチームへの参画を通して、より幅広い分野との連携を行っている。
- ・丁寧な相談支援を行い、事業所やその職員との関係を構築している。その結果、担当者が他事業所に移ったとしても、当事業所に新規相談の連絡がある。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

- ・ご利用者一人一人の価値観、生活様式などに配慮しながら、相談支援を行っている。その中で、ご家族とご利用者のニーズが一致しない場合、関係者と協力し、ニーズの一致に努めている。
- ・ご利用者のエンパワメントの視点に重点を置き、利用者一人一人にどこまでの支援を行うかを適時検討し、実施。その後、振り返りを行い、支援の必要性、ご本人の持っている力の整理などを行っている。
- ・ご利用者の立場に立ち、ご利用者の意思を尊重した上で、ケアマネジメントを実施している。
- ・虐待防止の取り組みとして、虐待疑いやリスクの高いご家庭について、事業所との情報共有を行い、早期に行政に連絡。その上で、障害福祉サービスの再調整等、関係機関と協力しながら、支援を行っている。

(2) 財務視点

- ・事業所の実績・収入状況については、適時確認を行い、管理者並びに相談支援専門員ともに経営意識を高く持つことができている。
- ・2021年度は、障害福祉サービス費の報酬改正があり、報酬体系の理解、新しい加算の理解などに努める必要がある。

- ・モニタリング確認表を作成し、モニタリング期間を正確に把握、モニタリング未実施がないように取り組んだ。
- ・職員の有休消化については、ほぼ消化できるよう業務分担等を行い、有休消化率は50%以上となっている。また、ノー残業デイの順守など、時間外勤務の削減にも積極的に取り組んでいる。

(3) 人材視点

- ・週1回ケースカンファレンスを行い、支援内容の報告、支援の必要性確認、気持ちの整理などを行うことで、バーンアウトを防ぐことができている。
- ・相談支援専門員の業務遂行状況に合わせ、月1回以上の個別面談を行い、相談員が抱えているジレンマ、課題を共有し、課題解決に向け取り組んでいる。また、業務の進み具合、計画・モニタリング利用者の確認も併せて行っている。
- ・普段の業務内でもケースについて気軽に情報共有できるよう環境整備を行っている。
- ・コロナ禍の中、外部研修が開催されていなかったが、年度後半より、リモートにて研修に参加し、専門知識の習得に力を入れている。

(4) 地域貢献視点

- ・南区地域部会部会長として、南区内の障害福祉向上に関する活動の検討を継続して行っている。しかし、本年度は、新型コロナ感染予防の観点より、休止となっている。その他、札幌市自立支援協議会のプロジェクトチームへの参画、全体会への参画なども継続して行っている。

(5) ガバナンス視点

- ・コンプライアンス対策として、職員個々と月1回以上の個別面談、適時業務状況の確認を行い、契約関係書類、経過記録、計画・モニタリング利用者の確認等を徹底した。

4. 課題

(1) 新型コロナ感染予防

- ・2020年度は、新型コロナ感染予防の観点から、施設等への訪問、各種会議が開催できない、新型コロナ感染に関わるサービス調整等、今までとは違う形で業務を行っている。この状況は、今後も続くことが予想されるため、訪問を必要最小限にとどめ、顔を合わせるできない分、より緊密に情報共有を行う。場合によっては、オンライン会議の開催等を検討する。

(2) ケース確保

- ・2021年度より、相談支援専門員が2名体制となる。現在400名弱のご利用者とは契約しており、新規利用者の受け入れが困難な状況となることが予想される。適正な業務分担と事業所体制を再検討していく。

(3) リスク管理

- ・コンプライアンス対策として、相談支援専門員が相互に契約関係書類、経過記録、計画・モニタリング利用者の確認等を行う体制を構築していく。

5. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況（2021年3月31日現在）

職種	人数	資格	備考
管理者兼相談支援専門員	1人	社会福祉士	
相談支援専門員	1人	社会福祉士・介護福祉士	—
計	2人	—	—

(2) 相談ケースの確保状況

紹介経路	基本相談	計画相談	障害児計画相談	地域移行計画相談	計
法人内施設	0	0	0	0	0
法人内事業所	0	1	0	0	1
他相談支援事業所	0	6	0	0	6
医療機関	1	5	0	0	6
ご家族・本人	1	1	0	0	2
行政機関	1	0	0	0	1
その他	2	11	0	0	13
計	5	24	0	0	29

(3) 相談対応実績

① 新規相談ケース

	申請済み	未申請	計	2019年度
4月	1	0	1	7
5月	0	2	2	1
6月	2	1	3	8
7月	0	1	1	6
8月	1	2	3	12
9月	0	0	0	6
10月	1	4	5	4
11月	3	1	4	5
12月	2	1	3	10
1月	0	6	6	4
2月	0	0	0	0
3月	0	1	1	2
計	10	19	29	70

② 新規相談ケース紹介経路

	法人内施設	法人内SRV	他相談支援	医療機関	ご家族	行政機関	その他	計	2019年度
4月	0	0	1	0	0	0	0	1	7
5月	0	1	1	0	0	0	0	2	1
6月	0	0	1	1	0	0	1	3	8
7月	0	0	0	1	0	0	0	1	6
8月	0	0	0	2	0	1	0	3	12
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	6
10月	0	0	1	2	0	0	2	5	4
11月	0	0	1	0	1	0	2	4	5
12月	0	0	0	0	1	0	2	3	10
1月	0	0	1	0	0	0	5	6	4
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	1	1	2
計	0	1	6	6	2	1	13	29	65

③ 新規相談ケース障がい福祉サービス事業所への紹介件数（法人内）

	生活介護	ホームヘルプ	短期入居	入居	高齢者サービス	その他	計	2019年度
計	2	11	1	1	1	0	16	9

④ 相談支援給付費対象相談件数（計画、継続支援、地域移行支援）

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	計	2019年度
4月	1	11	11	8	5	18	17	71	58
5月	0	7	7	11	10	19	12	66	41
6月	0	14	7	12	7	18	13	71	51
7月	0	7	11	9	8	18	11	64	43
8月	0	7	6	7	11	15	10	56	44
9月	1	21	14	17	10	25	18	106	71
10月	0	10	10	6	3	18	12	59	45
11月	0	10	10	11	8	16	5	60	51
12月	0	6	8	9	7	18	12	60	60
1月	0	12	6	11	15	18	12	74	69
2月	0	13	12	4	12	23	11	75	70
3月	0	10	7	13	10	26	6	72	76
計	2	128	109	118	106	232	139	834	679

(4) 研修状況

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2020. 7. 10	南区相談室事例検討会	ほっと相談センター・相談支援事業所グリーンハイム	相談支援専門員 3名
2021. 3. 3	ひきこもり支援機関関係職員等研修会	こころのリカバリー	相談支援専門員 2名
2021. 3. 18	虐待防止研修	社会福祉協議会	相談支援専門員 1名
2021. 3. 25	札幌市自立支援協議会子ども部会研修会	札幌市	相談支援専門員 2名

8. 通所事業部

1. 通所事業部総括

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりご利用者の動向が大きく変化した1年となった。緊急事態宣言や外出の自粛要請による、ご利用者の自主的なご利用控えや住宅サービスを利用しているご利用者が住宅独自の外出禁止等によってご利用ができないといった状況が多く発生した結果、通所事業部の4事業所ともに4月～5月、11月～12月のご利用が伸びず事業計画の目標数値を達成することができなかった。その状況下でも和幸園デイサービスセンターと和幸園自立訓練型デイサービスセンターでは2019年度実績を上回ることができたのは、高齢者人口の増加だけではなく、積極的に居宅介護支援事業所と連携して新規ご利用者を獲得して登録者数を増加させた成果である。

ご利用者・職員にとって今までに経験したことのない感染症との闘いの1年で、ご利用者には検温や手指消毒・マスクの着用を協力して頂き、事業所では換気・消毒・パーティションの設置をして感染防止に取り組んだ。ご利用者・各事業所の職員が一丸となって感染防止に取り組み、幸いにもクラスターとなるような事案は発生せず、通所事業をストップすることなく運営できたことは介護を必要とする方々の在宅生活を支えるうえで重要な役割を担うことができた。

「和幸園デイサービスセンター」、「和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森」、「生活介護事業所グリルハイム」、「和幸園自立訓練型デイサービスセンターあうるの森」の4事業所の主任と通所事業部課長・係長で構成する通所事業部会では、各事業所の稼働実績を含めた経営状況報告や運営管理・書類管理・サービス状況等における課題を出し合い、各事業所の質の向上、感染防止、業務効率化、適正化、稼働実績の向上を図るとともに事業所間の連携力を高めてきた。また、通所事業内の一時的な人材不足にも事業所を超えた協力体制を構築することでフォローできている。

人材面においてはパート職員の欠員に対して新規採用が思い通りに進んでいない現状であるが、今後も粘り強く求人活動を行っていききたい。既存職員は資格取得支援制度を活用して7名が介護福祉士試験を受験し全員合格することができた。引き続き人材育成を意識して専門性を高めていきたい。

今後も法人内外の居宅介護支援事業所や相談支援事業所とより一層の連携を図り、新規ご利用者の確保に向けたサービスの質向上を追求するとともにそれぞれの強みを活かした運営を行い、地域の方々を元気にするデイサービスとしてご利用頂けるよう努力していききたいと考えている。

9. 和幸園デイサービスセンター

1. 事業活動報告

2020年度の重点目標である安定した利用実績と収益の維持を目指すとともに、新規利用者の獲得を図るという点においては、新規利用者数が42名で2019年度と比較し下回っているが、廃止者数は37名で横ばいである。年間平均利用実績は33.5名の目標に対し、32.15名とやや下回る結果となった。廃止の主な理由としては、2名がご逝去、8名が施設入居、11名が長期入院となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、長期間休止になった後、そのまま終了となったケースもある。体験利用者への対応では、ご利用者のみならずご家族や担当ケアマネジャーに対し積極的に発信することで、多くの方々が体験から新規利用へとつながっている。

サービスについては、ご利用者の高齢化もあり、体調管理においては職員全体でそれぞれの情報をしっかりと把握し、受診状況や体調の変化などをご家族やケアマネジャーなどと密に情報共有することで早期に異常を察知して、早期受診へと結びつけていくことができた。今後もご利用者、ご家族との会話の中で小さな困りごとや不安などに対して敏感に気付いていけるように関係機関との連携を図っていきたい。

レクリエーション活動への取り組みについては、新型コロナウイルスの影響に伴い、外出レクは実施できなかったが、小規模でご利用者からの要望を取り入れた趣味活動や季節感を感じることができるような行事の企画や脳トレーニング、ゲーム活動を提供した。

この数年継続して取り組みを行っている自立支援介護については、基本ケア「水分・食事・排便・運動」が身体介護や認知症介護において共通する重要な項目であることを職員の共通認識として実践した。職員がその基礎知識を深め、技術を身につけて経験値を積んでいけるように、今後も勉強会などの機会を増やしていく予定である。

2020年度においても新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、外出を控えるご利用者や外出自粛を促す高齢者住宅、施設等からの利用自粛が繰り返された。一方で、自宅にて1人で生活することができないご利用者も多く、職員が一丸となって必要な感染症予防対策を講じながら事業を継続することができたことは非常に意義のあることと考える。新型コロナウイルスの収束は、未だ見えない状況ではあるが、今やるべきこととできることを継続しながら、ご利用していただくご利用者が安心して笑顔で過ごしていただけるようにサービスの提供を続けていきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置状況

2021年3月31日

職 種	人数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	和幸園施設長兼務
生活相談員	4	1	3	0	0	介護職員兼務3名
介護職員	17	4	3	9	1	相談員兼務3名 他事業所と兼務1名
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務3名
機能訓練指導員	4	1	0	0	3	看護職員兼務3名
事務員	1	0	0	1	0	
エイド	1	0	0	1	0	
計		6	7	11	7	

(2) 職員研修実施状況

No	開催日	研 修 名	参加職種
1	2020. 5. 11	実務者研修	介護職員1名
2	2020. 6. 6	実務者研修	介護職員2名
3	2020. 4~2021. 3	自立支援 WEB 会議（水分・食事・排泄・運動と、認知症ケアについて）	生活相談員1名 介護職員（1~2名）

(3) ご利用者状況

① 利用者登録状況 (登録者数)

	2020. 3. 31	2020. 4. 1～2021. 3. 31		2021. 3. 31
	ご利用者	新規登録者	廃止者	ご利用者
男性	46	16	11	51
女性	72	26	26	72
計	118	42	37	123

② 年齢別状況

(2021年3月末 実人員数)

	～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	
									2020年度	2019年度
男性	0	2	9	8	10	11	3	1	44	37
女性	0	1	2	2	16	22	18	5	66	58
計	0	3	11	10	26	33	21	6	110	95

③ 要介護状態区分状況

(2021年3月末 実人員数)

	要支援1	要支援2	要介護					計	
			1	2	3	4	5		
男性	4	5	21	8	4	1	1	44	
女性	6	11	26	15	2	3	3	66	
計	2020	10	16	47	23	6	4	4	110
	2019	9	14	33	23	8	3	5	95

④ ADL区分 (2021年3月末 実人員数)

	自立	一部介助	全介助
歩行	86 (車椅子自走含む)	19	5
排泄	92	13	5
食事	104	4	2
入浴	41	65	4
更衣	92	13	5

⑤ 廃止理由状況

	2020年度	2019年度
死亡	2	11
入所・入居	8	12
入院	11	8
引越し	0	0
その他	16	9
計	37	40

⑥ 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均			
														2020	2019		
実 人 員	96	88	101	108	108	108	115	107	96	98	103	110	1,238				
実 施 日 数	26	26	26	27	26	26	27	21	26	24	24	27	306				
延べ利用人員	720	715	842	913	889	903	968	633	824	760	799	890	9,856				
1日平均利用数	27.69	27.50	32.38	33.81	34.19	34.73	35.85	30.14	31.69	31.67	33.29	32.96		32.21	30.0		
介 護 状 態 区 分	要支援1	30	26	32	35	28	32	37	25	28	23	32	42	370			
	要支援2	76	59	83	110	113	121	137	85	103	96	104	110	1,197			
	要 介 護	1	267	281	348	361	339	319	366	236	328	317	340	376	3,878		
		2	199	196	225	259	257	296	302	198	238	229	220	253	2,872		
		3	81	75	76	87	83	70	71	49	59	45	55	50	801		
		4	18	27	31	16	17	18	16	9	27	10	10	18	217		
5		49	51	47	45	52	47	39	31	41	40	38	41	521			

(4) 苦情受付件数 () 内 2019 年度

	件 数
介護に関すること	0 (0)
職員に関すること	0 (0)
その他	0 (2)
計	0 (2)

(5) 事故報告件数 () 内 2019 年度

	件 数	施設外受診
転倒	8 (9)	1 (1)
介護上の事故	2 (0)	0 (0)
異食	0 (1)	0 (0)
誤薬	0 (2)	0 (0)
その他	6 (0)	0 (0)
ヒヤリハット	3 (4)	0 (0)
計	19 (16)	1 (0)

(6) 行事及び活動実施状況

月	日程	行事及び活動内容	延べ参加人数
4月	4月6日～4月11日(6日間)	カラオケ大会	177名
5月	4月30日～5月5日(6日間)	菖蒲湯	119名
6月	6月8日～6月13日(6日間)	青空喫茶	190名
7月	7月6日～7月11日(6日間)	スポーツ大会	209名
8月	8月3日～8月8日(6日間)	夏祭り	208名
9月	9月15、18、19、21日(4日間)	敬老会	142名
10月	10月12日～10月17日(6日間)	喫茶レク	209名
11月	11月2日～11月6日(5日間)	秋の収穫祭	171名
12月	12月19日、 12月21日～12月25日(6日間)	クリスマス会	187名
1月	1月4日～1月10日(6日間)	くじ引き	191名
2月	1月27日～2月2日(6日間)	節分(年男、年女記念撮影含む)	197名
3月	3月8日～3月13日(6日間)	年度末ゲーム大会	200名

(7) ボランティア受け入れ状況

- ・有償ボランティア3名 週5回(午前4回・午後3回)利用者お茶提供、洗い物、掃除など

(8) 実習生受け入れ状況

2020年度 1名(北星学園大学、相談援助入門実習)

10. 和幸園芸術の森デイサービスセンターのえるの森

1. 事業活動報告

2020年度の実績目標は、前年度の利用実績を維持するため、登録者35名、1日平均利用者数10名を目標に取り組んできた。新規利用者については、法人内居宅からの新規紹介が4名（前年度4名）、法人外居宅からの新規紹介が13名（前年度3名）となった。施設入所などによる廃止者数は11名となり、2021年3月31日時点での登録者数は30名（年間平均は26.25名）、一日平均利用者数は9.47名（前年度10.42名）となった。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い利用を自粛される方や入院・入所などで利用廃止となる方が続いたことで実績が伸び悩むこととなり、年間を通じての目標実績には届かなかったが、こまめに振替利用や追加利用の提案を継続し、毎月の空き状況をケアマネジャーに伝えていくことで、下半期以降は少しずつではあるが実績の回復が見られた。

その一方で法人外居宅からの新規紹介数が大幅に増えているのは、新型コロナウイルス感染拡大により事業規模を縮小する事業所などもある中で、当事業所へ変更して下さるケースや利用中の事業所での対応が困難になり当事業所を頼って下さったケース、初めてご利用していただくケースなども数多くあり、これまでの支援実績が法人外居宅からも大きな評価と信頼をいただいているものとする。また、新規利用するにあたり粘り強く体験利用にお誘いし、通常のサービス提供時間でのご利用が難しい方には送迎時間を変更するなどの柔軟な対応を図ることで、ご利用者やご家族が安心してご利用を決めていただくことができた。これらも職員全体でご利用者、ご家族のニーズに対応してご利用に繋げていきたいという強い思いがあつての結果と考えている。

2020年度は、これまでに経験したことのない新型コロナウイルス感染拡大により、年間の行事活動などにおいて規模の縮小や予定の変更を余儀なくされた。例年であればご家族をご招待しての夏祭りやクリスマス会も、感染予防のためにご利用者のみでの開催としたが、開催日をそれぞれ数日間とし、より多くのご利用者様が参加できるように計画を立て、職員が個々の特技を生かした余興を披露するなどして楽しく過ごしていただくことができた。外出行事やドライブについても感染予防の観点から、全てを中止せざるを得なかったが、新設したテレビモニターなどを利用しながらレク活動の充実を図り、職員の創意工夫で新しい運動レクを考案し、定期的に大道芸の催しや音楽療法を行い、季節ごとの制作や行事を行うことで季節感を楽しんでいただくように努めてきた。毎日提供するお食事内容も季節の素材を活かしたメニューを盛り込み、季節行事に合わせたメニュー内容として、でき立ての温かいお食事を楽しんでいただいた。また、専門職である看護師とも協働してご利用者の体調や病状にも可能な限り対応しての食事提供をしていくことができた。

地域やご家族との交流という点では、残念ながら家族会の開催は実現できなかったが、普段の送迎の際の情報交換や細やかな連絡体制を構築し、ご家族の不安感などをいち早く察知できるように努めた。ご家族からはこのような状況下でも通所事業を継続していることへの感謝の言葉をいただくことがあり、職員のモチベーションの向上にもつながった。地域へも広報誌の配布を継続して、当事業所の活動内容をお伝えしてきた。

2020年度は、法人全体で新型コロナウイルス感染予防に取り組み続けた1年であったが、今後も事業所の職員一人ひとりが責任感を持ち続け、ご利用者やご家族が安心して利用できる場でありたい。

このような困難な時期にこそ、ご利用者やご家族の気持ちに寄り添いながら専門性の高いケアを提供し、地域に暮らす認知症の方々が幸せに暮らしていけるよう、心をこめた支援を実践していきたい。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	1名管理者兼務、2名介護職員兼務
介護職員	10	0	2	8	0	2名生活相談員兼務
看護職員	3	0	0	0	3	機能訓練指導員兼務
機能訓練指導員	3	0	0	0	3	看護職員兼務
事務員	0	0	0	0	0	
エイド	3	0	0	3	0	
計	23	0	6	11	6	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研 修 名	開催地	参加職種
1	2020.4~2021.3 毎月1回	自立支援介護実践研修	法人内	介護職員 生活相談員
2	2020.6.9	感染症について	事業所内	職員全体
3	2020.9.8	どうやったら健康になれるか? 「食」	事業所内	職員全体
4	2021.2.9	介護における接遇マナー・介護事故事例に みる「のえる」の場合は?	事業所内	職員全体

③ ご利用者登録状況

	2020.3.31	2020.4.1~2021.3.31		2021.3.31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男性	7	3	4	6
女性	17	14	7	24
計	24	17	11	30

④ 年齢別状況

	55~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	計		平均年齢	
									2020	2019	2020	2019
男性	0	0	0	3	2	1	0	0	6	7	79.8	82.6
女性	0	0	0	0	2	11	6	5	24	17	90.5	88.2
計	0	0	0	3	4	12	6	5	30	24	85.2	85.4

⑤ 要介護状態区分状況

	介護度						計	
	支援2	1	2	3	4	5		
男性	0	5	0	1	0	0	6	
女性	0	7	8	4	5	0	24	
計	2020	0	12	8	5	5	0	30
	2019	0	7	6	8	2	1	24

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	6	11	17	0	9	9	0	4	4
排泄	5	14	19	1	7	8	0	3	3
食事	6	22	28	0	1	1	0	1	1
入浴	3	6	9	3	14	17	0	4	4
着脱衣	4	9	13	2	11	13	0	4	4

⑦ 認知状況

	記憶障害				失見当識			
	重度	中度	軽度	計	重度	中度	軽度	計
男性	0	4	2	6	0	0	6	6
女性	2	19	3	24	1	5	18	24
計	2	23	5	30	1	5	24	30

⑧ 認知症状類型

種類	計	
	2020年	2019年
アルツハイマー型認知症	18	12
レビー小体型認知症	1	3
脳血管性認知症	2	1
ピック病（前頭側頭型）	0	1
その他（混合型・不明）	9	7

⑨ 廃止理由状況

	男	女	計	
			2020	2019
死亡	0	1	1	1
長期欠席	0	0	0	0
入院・入居	4	6	10	10
その他	0	0	0	1
計	4	7	11	12

⑩ ご利用者世帯状況

		独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性		0	5	1	0	0	6
女性		5	1	5	10	3	24
計	2020	5	6	6	10	3	30
	2019	3	11	2	5	3	24

⑪ 月別利用状況

項 目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均	
															2020	2019
実人員		22	21	22	24	23	26	27	25	24	25	25	28	292		
実施日数		26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310		
延べ利用人員		228	197	220	237	225	262	290	249	260	239	243	286	2,936		
1日平均利用者数		8.77	7.58	8.46	8.78	8.65	10.08	10.74	9.96	10.00	9.96	10.13	10.59		9.47	10.42
支援		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介 護 度	1	33	27	44	50	49	64	81	72	79	82	84	115	780	2.52	1.88
	2	59	55	64	63	65	75	69	63	60	55	60	68	756	2.44	3.13
	3	72	59	53	67	54	57	69	61	54	46	44	48	684	2.21	2.77
	4	43	35	37	35	48	60	65	53	67	56	55	55	609	1.96	2.18
	5	21	21	22	22	9	6	6	0	0	0	0	0	107	0.35	0.29

⑫ 苦情受付件数

	件 数	
	2020年度	2019年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	0
計	0	0

⑬ 事故報告件数

	件 数	
	2020年度	2019年度
転倒	2	2
介護上の事故	2	0
異食	0	1
その他	5	3
ヒヤリハット	8	8
計	17	14

⑭ 行事及び活動実施状況

月	行 事
4月	音楽療法・大道芸
5月	端午の節句・のえるの森誕生会～祝13歳～・苗植え・音楽療法
6月	お茶会・音楽療法
7月	音楽療法
8月	避難訓練・夏祭り・音楽療法
9月	敬老会・大道芸・音楽療法
10月	秋のお茶会・音楽療法
11月	音楽療法
12月	クリスマス会・大道芸・音楽療法
1月	初笑い・音楽療法
2月	節分・避難訓練
3月	ひな祭り・大道芸・音楽療法

⑮ 有償ボランティア受入状況

人 数	回 数	活動内容	活動開始年月
1名	週4回	屋内外の整備等	H22年4月

⑯ 地域貢献活動

- ・広報紙の配布（街づくりセンター、町内会）

1.1. 和幸園自立訓練型デイサービスセンター あうるの森

1. 事業活動報告

2020年度は新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態の中、感染症への不安を感じながらも継続して利用して下さるご利用者の健康で楽しい生活を送りたいという思いを強く感じた1年であった。感染症対策において、ご利用者並びにご家族に様々なことにご協力いただき、職員は感染症への不安を抱えながらもご利用者のニーズに応えるために尽力してくれたおかげで、事業所運営を継続することができた。

経営面においては、緊急事態宣言や外出自粛要請によるご利用者の利用控えが4～5月、11～2月に見られ、1日の年間平均利用者数は13.27名となり、目標の15名には届かなかった。だが7月頃から新規のご利用者も増え、8月には15.05名と実績を伸ばすことができた。新規利用者数18名、廃止者14名で年度末の登録人数は67名と前年度と大きく変わらずに推移している。登録者の傾向としては要支援のご利用者が半数以上を占めており、利用回数も週1回のご利用者が多い。私用や体調不良等で急にお休みされるケースも多く、ケアマネジャーや関係機関と連携を図りながらサービス提供に努めているが、各単位での登録人数は8割強いるものの実績が伴わない状況が昨年同様に続いている。

地域貢献として取り組んでいた「介護なんでも相談」や地域の清掃活動なども感染症対策の為2020年度は取り組むことができなかったが、近隣の方に認知されてきたことを感じる場面が増え、今後も開かれた事業所でありたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症への不安が続く中、自宅での生活を継続するために運動する機会は必要と声をかけてくださるご利用者の思いを大切に、開設から3年が経過した今、初心に戻り利用者ニーズに応えるために我々ができることは何なのか、求められる事業所になる為に必要なことは何かを日々考え、職員一丸となって取り組んでいきたい。

2. 事業運営状況

① 職員配置状況

職 種	人 数	区 分				備 考
		常 勤		非 常 勤		
		専任	兼務	専任	兼務	
管理者	1	0	1	0	0	生活相談員兼務
生活相談員	3	0	3	0	0	1名管理者兼務、2名介護職員兼務
介護職員	5	0	2	3	0	2名生活相談員兼務
機能訓練指導員	1	1	0	0	0	理学療法士
計	10	1	6	3	0	再掲あり

② 職員研修実施状況

No.	開催日	研修名	開催地	参加職種
1	2020. 9. 17	接遇研修	WEB 研修	生活相談員
2	2020. 10. 19	リスクマネジメント・緊急時対応について	施設内	全職員
3	2020. 12. 21	個人情報の取扱いについて(プライバシー保護)	施設内	全職員
4	2021. 1. 18	認知症について(自立支援介護)	施設内	全職員
5	2021. 2/15	身体拘束について・倫理規定、法令遵守について	施設内	全職員
6	2021. 3. 15	ご利用者アンケートより(利用者満足度向上検討)	施設内	全職員
7	随時	感染症対策について	施設内	全職員

③ ご利用者登録状況

	2020. 3. 31	2020. 4. 1～2021. 3. 31		2021. 3. 31
	登録者	新規者	廃止者	登録者
男性	25	6	7	24
女性	40	12	9	43
計	65	18	16	67

④ 年齢別状況

	55～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計	平均年齢
男性	0	2	5	4	4	8	2	0	25	80.14
女性	1	1	1	10	10	12	5	2	42	82.35
計	1	3	6	14	14	20	7	2	67	81.47

⑤ 要介護状態区分状況

(2021年3月末現在)

	事業対象者 要支援1	要支援2	要介護					計
			1	2	3	4	5	
男性	9	4	6	6	1	0	0	26
女性	15	9	11	5	1	0	0	41
計	24	13	17	11	2	0	0	67

⑥ ADL状況

	自力可能			一部介助			全介助		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
歩行	21	34	55	4	8	12	0	0	0
排泄	22	42	64	3	0	3	0	0	0
食事	25	42	67	0	0	0	0	0	0
入浴	18	35	53	7	7	14	0	0	0
着脱衣	24	41	65	1	1	2	0	0	0

⑦ 疾病別利用状況

疾病種別	2020年度	2019年度	種類	2020年度	2019年度
関節疾患（膝・腰・股・肩）	37	26	呼吸器疾患	4	4
糖尿病	11	14	統合失調症	1	1
認知症	16	17	脳梗塞等後遺症	10	9
鬱病	2	3	その他	22	27
パーキンソン病関連疾患	5	5	－		

⑧ 廃止理由状況

	男	女	計	
			2020年度	2019年度
死亡	0	0	0	2
長期欠席	1	0	1	2
入院・入居	3	2	5	2
その他	3	5	8	10
計	7	7	14	16

⑨ ご利用者世帯状況

	独居	夫婦	息子と同居	娘と同居	その他	計
男性	1	13	5	3	3	25
女性	12	8	8	7	7	42
計	13	21	13	10	10	67

⑩ 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	2019	
実人員	54	48	57	60	59	60	61	59	52	53	50	56	669	657	
実施日数	22	19	22	23	19	22	22	21	20	20	20	23	253	253	
延べ利用人員	284	228	290	337	286	302	320	275	240	249	246	311	3,368	3,350	
1日平均利用者数	12.91	12.00	13.18	14.65	15.05	13.73	14.55	13.10	12.00	12.45	12.30	13.52	13.31	13.24	
支援	1	69	62	79	88	78	89	85	78	77	85	75	96	961	807
	2	58	34	63	92	69	74	95	79	62	68	69	76	839	728
要介護	1	93	78	83	92	85	84	89	71	67	47	53	83	925	955
	2	45	38	43	47	41	38	39	40	32	45	45	53	506	722
	3	15	13	19	17	13	17	12	7	2	4	4	3	126	111
	4	4	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11	27
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑪ 苦情受付件数

	件 数	
	2020 年度	2019 年度
介護等に関すること	0	0
職員に関すること	0	0
その他	0	2
計	0	2

⑫ 事故報告件数

	件 数	
	2020 年度	2019 年度
転倒	4	5
介護上の事故	0	0
異食	0	0
その他	1	2
ヒヤリハット	6	2
計	11	9

⑬ 行事及び活動実施状況

月	行 事
4 月	
5 月	お花見
6 月	避難訓練
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	

月	行 事
11 月	
12 月	紅葉見学
1 月	クリスマス
2 月	避難訓練
3 月	

* 2020年度運営推進会議は新型コロナウイルス感染症対策の為、事業内容を送付。

* 毎月誕生会実施

⑭ 地域貢献活動（福祉教育）

- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症対策の為、介護なんでも相談は行わず。

12. 生活介護支援事業所グリーンハイム

1. 事業実績の要約・課題

新型コロナウイルス感染症による未曾有の事態の中で、ご利用者に利用を継続していただけていることで、地域社会での事業所の存在意義を実感するとともに、これからも地域社会を支える事業所として運営を継続していくことの必要性を改めて感じる1年となった。職員自身も感染症の恐怖と闘いながら、専門職としての使命と誇りから勤務を継続している。今後もこの人財を大切にしていくとともに、さらなる職員育成を継続して行い、地域福祉の一役を担っていける事業所でありたいと考えている。

経営状況としては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言や外出自粛要請によるご利用者の自主的なご利用控えが4月～5月、11月～12月に発生した結果、1日平均利用者数13.37名と前年度比で0.69名(延べ211名)の利用実績減となった。年間を通して新規利用者は2名、廃止者は3名と、登録人数は1名減少する結果となった。障がい区分5・6割合は63%を超え「人員配置体制加算I」を取得することができた。次年度においても重度ご利用者の受け入れを継続し、障がい区分5・6割合60%以上を確実に維持するために、日々の実績管理を行っていくことが求められる。

地域との連携において、2019年度まで札幌市自立支援協議会南区地域部会子ども部会へ参画し、研修や交流の中で他事業所や養護学校と連携強化を図ってきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動ができなかった。次年度はオンライン等での連携活動を模索して、将来的なご利用者の確保に取り組んでいきたい。

職員体制としては、2019年度から続いていた欠員の募集を粘り強く行い6月にパート職員1名の採用ができ、体制を整えることができた。その後、家庭の事情により12月と2月に各1名パート介護職員が退職したが、2月に2名を採用し長期の欠員なく運営することができた。職員一丸となり新規採用のパート介護職員へ教育を行ったことで、早期に現場で活躍することができ、ご利用者に不利益を与えない事業所運営ができた。今後も職員育成に取り組むと共に、欠員時の職員募集を様々な募集媒体を活用して、計画的にパート介護職員を確保し、事業所の安定運営を図っていきたい。

今後における大きな課題として新規利用者の確保があげられる。ご利用者の高齢化がさらに進み、利用廃止者が増加する可能性が予想されるため、実績を維持、向上させていくための対策が急務である。今後も、南区内にある相談支援事業所、養護学校、知的障がい施設等へのアプローチを丁寧に行っていきたいと考えている。特に、相談支援事業所グリーンハイムとの連携強化を図り、新規利用者確保に努めていきたい。また、ショートステイ利用ができる施設と併設している強みを活かし、ショートステイと絡めたご利用者の確保にも継続して取り組んでいきたい。

2. 事業運営状況

(1) 職員配置

職 名	現 員 数	備 考
管理者	1	常勤兼務(正職員)
サービス管理責任者	1	常勤(正職員)
看護師・機能訓練指導員	2	非常勤職員
生活支援員(介護員)	14	正職員3名 非常勤職員11名
計	18	

(2) 職員研修実施状況

【施設内研修】

NO	研 修 名	開催日	参加人数
1	自立支援介護 Web 研修	毎月1回	1名

(3) ボランティアの受入状況

有償ボランティア・・・1名 月～金曜日 11時30分から15時30分

(4) 実習生受け入れ状況

新型コロナウイルス感染症の感染防止により実習生の受け入れができず

(5) ご利用者状況

① ご利用者登録状況

区 分	2020年3月31日	2020年4月1日～2021年3月31日		2021年3月31日	備 考
	登録者数	新規登録者	廃止者	登録者数	
男性	17	0	0	17	
女性	25	2	3	24	
計	42	2	3	41	

② 登録廃止理由状況

	男性	女性	計	2019年度
死亡	0	1	1	2
長期入院	0	0	0	1
施設入居	0	0	0	0
地域移行	0	0	0	0
その他	0	2	2	0
計	0	3	3	3

③ 年齢別状況（2021年3月末現在）

区分	～20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満
男性	1	0	2	2	2	6
女性	0	1	7	5	2	5
計	1	1	9	7	4	11
区分	70歳～		計	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	4		17	20	75	56.53
女性	4		24	25	81	51.75
計	8		41			53.73

④ 疾患別・障害程度区分別状況（2021年3月末現在）

	疾患別状況			障害の支援区分別状況									
	男性	女性	計	2		3		4		5		6	
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳性麻痺	4	8	12	0	0	1	0	0	2	1	1	2	5
脳血管障害	3	3	6	0	0	1	1	2	1	0	0	0	1
心臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部外傷	2	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
視覚障害	1	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
リウマチ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知的障害	4	2	6	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0
その他	3	8	11	0	0	2	3	0	0	0	0	1	5
計	17	24	41	0	0	5	5	6	3	1	3	5	13

⑤ ADL状況（2021年3月末現在）

	食 事				更 衣			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	4	3	5	12	8	2	2	12
脳血管障害	1	0	5	6	1	1	4	6
心臓病	0	1	0	1	0	1	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	0	1	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	0	2	4	6	1	3	2	6
その他	4	3	4	11	5	1	5	11
計	9	12	20	41	17	9	15	41
	排 泄				入 浴			
	全介助	一部介助	自立	計	全介助	一部介助	自立	計
脳性麻痺	8	0	4	12	8	4	0	12
脳血管障害	1	0	5	6	1	4	1	6
心臓病	0	1	0	1	1	0	0	1
頭部外傷	0	1	1	2	1	0	1	2
視覚障害	0	1	1	2	1	0	1	2
リウマチ	0	1	0	1	1	0	0	1
知的障害	2	3	1	6	3	3	0	6
その他	6	1	4	11	6	2	3	11
計	17	8	16	41	22	13	6	41

⑥ 移動の状況（2021年3月末現在）

	全介助	補助具使用で歩行可能	車椅子で移動可能（電動含む）	独歩可能(不安定者含む)	計
脳性麻痺	6	1	4	1	12
脳血管障害	1	0	3	2	6
心臓病	0	0	1	0	1
頭部外傷	0	0	1	1	2
視覚障害	0	0	0	2	2
リウマチ	0	0	1	0	1
知的障害	1	0	1	4	6
その他	4	0	2	5	11
計	12	1	13	15	41

⑦ 言語障害の状況（2021年3月末現在）

	正 常	ほぼ聞き取れる	半分程度聞き取れる	時々聞き取れる	会話不能	計
脳性麻痺	4	2	2	1	3	12
脳血管障害	2	3	0	0	1	6
心臓病	0	1	0	0	0	1
頭部外傷	1	0	0	1	0	2
視覚障害	2	0	0	0	0	2
リウマチ	1	0	0	0	0	1
知的障害	2	0	1	2	1	6
その他	5	0	0	0	6	11
計	17	6	3	4	11	41

(6) 苦情処理状況（ ）は2019年度分

	件 数	第三者機関依頼
職員との関係	0 (0)	0 (0)
運営等関係	0 (0)	0 (0)
計	0 (0)	0 (0)

(7) 事故発生状況（ ）は2019年度分

	件 数	施設外受診対応
転倒	2 (4)	0 (0)
誤薬	0 (0)	0 (0)
介護事故	1 (3)	0 (0)
その他	1 (1)	0 (0)
計	4 (8)	0 (0)

(8) 活動内容・行事他

① 活動・行事内容

月	行事	創作活動
4月	おやつパーティー3回	折り紙製作教室、子どもの日飾り制作
5月	園芸活動～花、野菜などの植物の苗を植えよう	牛乳パックグライダー製作
6月		夏の飾り作り、調理教室
7月	バーベキュー（中庭にて）1回	和紙工作・トレー製作
8月	バーベキュー（中庭にて）4回、園芸活動～野菜を収穫しよう	折り紙製作教室、秋の飾り作り
9月	縁日レク 4回	ハロウィン飾り製作
10月	焼き芋パーティー 3回	ハロウィン飾り製作、凧作り
11月		クリスマス飾り製作
12月	クリスマス会 2回	正月飾り製作
1月	新春ビンゴゲーム大会 6回、鍋料理の日（寄せ鍋）2回	春の飾り作り、節分お面作り
2月	節分の豆まき、鍋料理の日（寄せ鍋）3回	ひな祭り飾り製作
3月		桜の木・花制作

② スポーツレク活動（2020.4～2021.3まで毎日午後に行っていた活動）

スカットボール、ボウリング、ホームランゲーム、ペットボトルボウリング、缶コロリングゲーム、射的、ゲーゴルゴルフ、ゲーゴルゲーム、めくってポンゲーム、ペタンク、ペットボトルサッカー、トントン相撲、豆まめリレー、アニマルゲーム、輪投げ、的あてゲーム、トランプ、外気浴、館内散歩

③ 個別活動：（2020.4～2021.3まで行っていた活動）

ストレッチ、将棋、オセロ、麻雀、カラオケ、塗り絵、和紙工作、数学勉強、DVD 試聴、編み物、歩行訓練（廊下内）、日光浴、館内散歩

(9) 月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ご利用者数	37	34	37	38	39	37	39	39	35	36	39	39		
区分別延（利用者数） （下段は）利用者数	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	区分3	60	54	67	61	66	67	71	55	60	55	60	74	
		8	8	8	8	10	9	9	9	9	8	9	9	
	区分4	53	33	64	66	62	52	55	44	51	50	47	64	
		8	6	8	9	9	8	8	9	7	7	7	8	
	区分5	11	11	17	17	17	17	22	13	11	12	11	17	
		2	2	2	2	2	2	4	3	2	2	3	3	
	区分6	191	179	211	191	189	182	210	150	165	175	160	199	
		19	18	19	19	18	18	18	18	17	19	20	19	
	開設日数	24	22	25	24	24	23	26	22	23	23	21	25	282
	延ご利用者数	315	277	359	335	334	318	358	262	287	292	278	354	3,769
1日平均ご利用者数	13.13	12.59	14.36	13.96	13.92	13.83	13.77	11.91	12.48	12.70	13.24	14.16	13.37	
区分5・6の割合 (%)	64.13	68.59	63.51	62.09	61.68	62.58	64.80	62.21	61.32	64.04	61.51	61.02	63.09	

3. 日中一時支援事業グリーンハイム

(1) 登録者（定員3名）

男性 0名

女性 0名

(2) 月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4時間以上～8時間未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

13. 地域事業部

1. 地域事業部総括

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域事業部が長年取り組んできた、「いしやま朝市送迎バス」の運行や、石山地区福祉のまち推進センターと共催で実施している「お茶の間懇談会」は中止となる。法人としても地域貢献活動は、安全に実施することが大前提であり、2020年度は地域組織や利用者様・法人職員を守るという視点から、無理はせず休止という形で1年を通して進めてきた。次年度以降も感染状況、国や北海道、札幌市の方針に従いながら、法人として取り組める地域貢献活動を検討していきたい。

地域事業部各事業所の運営については、地域に根ざした活動を地道に行っており、和幸園指定居宅介護支援事業所では予算目標を達成した。グリーンハイム・和幸園ホームヘルプサービス事業所は昨年同様、登録ヘルパーの退職が相次いだことで実績としては、2019年度を下回る結果となった。ただし、両事業所とも事業活動収支差額としては黒字見込みであり、限られた人員の中で健全な事業所経営、地域貢献ができたと考えている。2021年度においても、変わらずに健全な事業所運営ができるよう、スタッフ一同で一致団結し事業運営を行っていききたい。

介護予防センターでは、2019年度より専門職が1名増員となり、より地域に根ざした活動を基本として、法人内外の人脈を活かし、地域との連携を強化した運営を実践してきたが、同じく新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、地域での活動は制限され、思う通りに活動ができない時期が続いた。一時的に感染状況が収束し再開となつては、また休止になるという繰り返しで、難しい運営を求められた1年であった。その中でも介護予防に資する活動の最前線として、地域との関わりをより円滑に行えるよう職員の創意工夫により事業所運営を行い、転倒予防教室などの活動もこのコロナ禍の中でも、可能な限り実施することはできた。

地域事業部事務局が芸術の森地区に移転し3年が経過したことで、芸術の森地区との連携体制はより強固になり、石山地区との連携体制も可能な限り維持することができている。国が推し進める地域包括ケアに必要な、地域に根ざした事業所づくりを変わらずに推し進めていきたい。

どんな依頼に対しても「断らない」という方針を基本として、2021年度もより一層地域に密着した事業展開を図っていききたいと考える。

1 4. 和幸園指定居宅介護支援事業所

1. 事業活動報告

2020年度の居宅介護支援事業所の目標件数は、給付管理数を要介護者数180件、要支援者数32件の計212件としていたが、実績は要介護者数189.8件、要支援者数34.5件、合計224.3件となり、目標を大きく上回ることができた。2019年度より引き続き「地域包括支援センターとの緊密な連携」に職員全員で協力して対応し、ご相談のあったケースについては可能な限り対応するという姿勢が結果に結びついたと考える。また、コロナ禍でのサービス利用自粛の影響についても、最小限に留めることができたことも大きな要因であったと考える。

職員体制については、12月末の1名退職による欠員に対し、人材紹介会社を活用し早期に人材補充が行えたことで、職員全員で協力し合いながら、ご利用者に負担をかけることなく、また支援の質を落とすことなく、支援を継続することができた。次年度においては、新人職員とともに更なる個々のスキルアップを図りながら、事業所全体として常に質の高い支援が提供できるよう進めていく方針である。

2. 本年度の重点目標

(1) 安定したご利用者確保に向けた関係機関との連携強化

地域で少しでも長く生活できるようにご家族及び地域の方々、サービス事業所と連携しながら、ご利用者の選択に基づき適切な保健医療サービスが受けられるよう支援を継続した。また、在宅生活に支障をきたす状況を施設で軽減し、再び在宅で生活していただくため法人の本体施設との連携をこれまでと同様に緊密に行ったことで、ご利用者が望まれる在宅生活の継続ができた。

(2) 自立生活支援の理念に沿ったケアプラン作成と運営基準の遵守

居宅サービスの運営基準を遵守し、不備のない分かりやすい記録を目指し、取り組みを進めてきた。毎週木曜日に行っている伝達会議にてケアプラン点検や事例検討を行い、運営基準の遵守に努めた。

3. 法人の5つの視点に対する取り組み

(1) 利用者視点

① 質の高いケアマネジメントの実践

積極的に医療との連携を図り、疾病と生活障がいとの関連性について精査し、ご利用者の生活課題を解決するための取り組みを行った。

② 中立性・公平性の確保

ご利用者の利益を最優先に支援を行い、独立かつ幅広い関係機関との関係を保ち、公平・中立なケアマネジメントを実践した。

③ 説明責任について

制度改正に伴う情報、ケアプランの内容をご利用者に適切な方法で分かりやすく説明した。

④ 高齢者の権利擁護のための必要な援助

高齢者虐待防止法の理解を深め、早期発見及び予防に努めるとともに、行政から依頼のあった緊急ケースに対し迅速に対応した。担当ご利用者で虐待の疑いがある場合は、事業所として方針を決め、札幌市・地域包括支援センターへ相談を行った。

⑤ 緊急時における迅速な対応

特定事業所として、緊急時に即対応できるよう各ケアマネジャーが連携し対応を行った。

⑥ 支援困難ケースの積極的受け入れ

認知症等の疾患が原因でサービス利用に対して拒否的な方に対しては、サービス内容の理解が容易に進むよう、ご家族等より詳細に情報を収集し、関係事業所との綿密な打ち合わせのもと対応することで、スムーズなサービス利用に繋がるよう支援した。

(2) 財務の視点

① サービス提供エリアにおける情報収集

常に経営分析を念頭に置きつつ、関係機関との連携の強化を図り、サービス提供エリアにおける新規参入事業所等、福祉サービスの動向を把握し、安定した事業所経営に努めた。

② ケアマネジメント力の向上による在宅生活期間の延長

事業所のケアマネジメント力の向上を図りながら、できるだけ住み慣れた在宅生活を長く継続できるよう、地域にある各種サービス事業所との連携強化に努めた。

③ 新規ケースの確保

新規ケースの確保ではあらゆる相談に可能な限り即時対応し、特に医療機関や地域包括支援センターからの紹介ケースを積極的に受け入れ、新規利用者確保に努めた。

④ コスト管理の徹底

職員全員で業務分担を積極的に行い、業務の効率化を推し進めた。また、効率的な訪問を意識し時間管理やガソリン等の経費の節減に心がけた。

(3) 人材確保と育成

年度途中の退職による欠員に対し、人材紹介会社を活用し早期に人材補充を行うことで、欠員による各職員の業務負担増の期間を極力短くし、疲弊によるバーンアウトを防止することができた。育成面については、引き続き必要時に個別面談を行い、主任ケアマネジャーを中心にスーパーバイズを行ったこと、伝達会議で個別ケースの検討（事例検討会）やケアプラン点検、新しい介護保険情報を全スタッフで共有し検討できたことで、事業所としての質の維持、向上に努めた。

(4) 地域貢献の推進

① 地域に密着した相談機関として、担当地域である南区第一地域包括支援センターからの相談件数を引き続き維持することができている。また、介護予防センターや民生委員の方と連携し、認知症や介護に関する相談の対応を行い、必要に応じて訪問し、各関係機関へつなげた。

② 例年実施している、石山「お茶の間懇談会」や「町内会のごみ拾い」などの地域の行事、また「いしやま朝市バス」の運行については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。感染拡大は今なお継続中であるため、今後社会情勢を見極めながら地域事業部の一員として地域に貢献できる形を模索していく。

(5) ガバナンス体制の強化

① 運営減算の発生防止として、定期的に介護保険制度の勉強会を行い、運営基準を遵守するよう努めた。

- ② プライバシーの尊重と秘密保持については、事業所内での検討を基に個人情報の安全な取り扱いをマニュアル化し、定期的に見直しを行った。

4. 事業運営状況

① 職員の配置状況（2021年3月31日現在）

・主任介護支援専門員 2名 ・介護支援専門員 5名

② 従業者研修実績

日 程	研修名	参加者数
2020. 3. 12	南区地域包括支援センター事例検討会	新型コロナウイルス感染症拡大により中止
2020. 3. 17	南区多職種研修会「認知症支援を中心とした地域包括ケアについて」他	新型コロナウイルス感染症拡大により中止
2020. 4. 9	「社会保障審議会介護保険部会の審議から見える改正の方向性」	新型コロナウイルス感染症拡大により中止
2020. 7. 28	南区代位1包括支援センター 難病についての研修・座談会	介護支援専門員2名
2021. 8. 21	伝達研修「南区第一包括主催個別ケア会議報告」（土佐CM）	介護支援専門員7名
2020. 10. 8	地域支援事業研修会	新型コロナウイルス感染症拡大により中止
2020. 11. 10	南区地域包括支援センター研修「家族介護者を支援する取り組みについて」	介護支援専門員3名
2021. 1. 22	伝達研修「難病のケアマネジメント」（高橋CM）	介護支援専門員7名
2021. 1. 22	伝達研修「合意形成の進め方」（安藤CM）	介護支援専門員7名
2021. 1. 22	伝達研修「インフォーマル支援活用、多職種連携について」（中野CM）	介護支援専門員7名
2021. 1. 22	伝達研修「メンタルヘルスについて」（金澤CM）	介護支援専門員7名
2021. 2. 9	南区地域包括支援センター研修「アセスメントに役立つ専門職の視点」ZOOM	介護支援専門員3名
2021. 2. 16	2021年度介護報酬改定ポイント ZOOM研修	介護支援専門員4名
2021. 2. 18	伝達研修「アセスメントについて学びを深める」（中島CM）	介護支援専門員7名
2021. 3. 11	合同事例検討会「ACP アドバンスケアプランニング」	介護支援専門員7名
2021. 3. 25	南区在宅医療従事者・介護者の意見交換会「コロナ禍における各事業所の感染対策の現状について」	介護支援専門員1名
2021. 3. 30	「ストレスケア」～カウンセラーに学ぶストレスフルな状況での支援に必要なこと	介護支援専門員1名

③ 居宅介護支援事業所請求実績数

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	未確定	計	要支援	総計
4月	79	53	28	14	9	3	186	33	219
5月	81	53	28	14	9	2	187	33	220
6月	85	53	26	14	8	3	189	35	224
7月	89	52	24	14	8	4	191	34	225
8月	89	52	29	12	8	5	195	35	230
9月	91	51	30	13	8	3	196	34	230
10月	94	52	27	12	8	3	196	37	233
11月	93	52	24	12	6	3	190	38	228
12月	88	56	24	12	7	1	188	35	223
1月	87	54	21	14	7	1	184	34	218
2月	89	52	21	14	7	5	188	33	221
3月	93	54	19	12	7	3	188	34	222
合計	1,058	634	301	157	92	36	2,278	415	2,693
2019年度	851	641	333	135	107	34	2,101	393	2,494

④ 相談ケース経路

	来所	法人内	民生委員	事業所	継続相談	ご利用者関係	電話	地域包括	サ高住等	認定調査員	医師、病院MSW	合計
合計	2	11	2	3	2	12	17	32	2	0	12	95

⑤ 新規利用者紹介経緯（給付管理を行った件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元ご利用者(再開)	7	0	6	2	3	2	2	2	5	6	6	3	44
病院	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3
法人内紹介	0	1	0	0	3	1	1	1	0	0	0	3	10
ご利用者家族	2	1	0	1	2	1	2	0	2	0	1	1	13
第一包括	4	3	1	2	2	1	4	1	0	0	1	1	20
第二包括	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
第三包括	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
予防センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南区紹介	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
電話	0	0	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	8
来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他居宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
継続相談	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
他事業所紹介	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
近隣住民相談	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
合計	18	10	10	10	12	9	10	6	7	7	9	9	117

⑥ 要介護者における事業種別 居宅給付管理件数（法人内にある5事業のみ、要支援含まず）

種 別	件 数（左側全体利用件数 右側法人内利用件数）							
	2020年度		2019年度		2018年度		2017年度	
	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内	全件数	法人内
訪問介護	727	302 (42%)	649	351 (54%)	694	445 (64%)	694	445 (64%)
通所介護	1,076	595 (55%)	901	507 (56%)	784	523 (67%)	784	523 (67%)
認知症 通所介護	198	130 (66%)	250	186 (74%)	281	220 (78%)	281	220 (78%)
短期生活介護	316	279 (88%)	357	306 (86%)	376	320 (85%)	376	320 (85%)
リハビリ特化 通所介護	247	160 (65%)	284	166 (58%)	282	220 (78%)	—	—

15. 和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所

1. 事業活動報告

2020年度は2019年度に続き慢性的なヘルパー不足があり、2019年度よりも更に、経営を縮小せざるを得ない状況が続いた。法人内異動で正職員が1名補充となり常勤体勢は変わらなかったが、4名の退職者が出ており、採用者は1名もいなかった。ヘルパーの平均年齢も高まってきている中、1ヶ月の1人当たりの平均稼働時間数はほとんど変化していない。事業所の状況を理解し、仕事を受けてくれるヘルパーがいることで、事業の継続はなんとかできている。

経営実績としては、新規相談は多数来ていたが、ヘルパーの人材不足のため、受け入れ件数は少なく、そして新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、予算の目標を達成することができなかった。しかし、昨年同様、職員体制をコンパクトにし、経営規模を縮小したことで何とか黒字決算の見込みである。稼働に関わる交通費や駐車料金に関しても経費削減のため、ヘルパーの派遣地域の見直し、安価な駐車場の選定、住宅前に駐車スペースがあるか等、新規受け入れの際にも詳細に確認し対応してきた。今後に関しては、第1に個々の職員の働き方の希望に耳を傾けながら、働きやすい職場を目指す事で、安定的な事業所の運営を進めるとともに、和幸園・グリーンハイムホームヘルプサービス事業所としての特色を持つため、看取り介護に力を入れていくという方向性を見つけることができた。そのために2021年度は準備期間として、研修などを重ねていきたいと考えている。

職員の育成については、毎月、ヘルパー会議を実施し、情報共有や、研修を継続することでヘルパー個々のスキルアップを図ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年までのような会議を行う事が難しくなっている。感染対策をしっかりと行うために、毎月の会議は1日3回に分けて、その分人数を減らし対応してきた。実技研修やグループワークの機会は減ってしまったが、資料を作成しての紙ベースでの研修に変更し、継続して実施することができた。現在のサービス実施記録表の使用についても、ネット環境で記録を残す形で試作を始めているので、スタッフ・ご利用者様・ご家族様の希望にも耳を傾けながら、効率化・ペーパーレス化に向けて取り組んでいきたい。

2. 事業運営状況

① 職員の配置状況

	ヘルパー体制			
	常勤	非常勤	総数	
			2020年度	2019年度
2020年4月	4	23	27	32
5月	4	22	26	32
6月	4	22	26	31
7月	4	21	25	29
8月	4	21	25	29
9月	4	21	25	29
10月	4	20	24	30
11月	4	20	24	29
12月	4	20	24	28
2021年1月	4	20	24	28
2月	4	20	24	28
3月	4	20	24	29

② ヘルパー資格状況

	2020年度	2019年度
介護福祉士	19	21
ホームヘルパー 1級	1	1
ホームヘルパー 2級	17	14
ガイドヘルパー	9	15

(重複有り)

③ 研修状況

<事業所内研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2020. 4. 18	法令順守 ※新型コロナウイルス対策のため書類のみ	事業所	ヘルパー23名
2020. 5. 16	老計第10号 ※新型コロナウイルス対策のため書類のみ	事業所	ヘルパー22名
2020. 6. 20	脱水・熱中症予防	事業所	ヘルパー17名
2020. 7. 18	ヒヤリハット	事業所	ヘルパー15名
2020. 8. 22	緊急時の対応	事業所	ヘルパー16名
2020. 9. 19	新型コロナウイルス感染症対策 グループワーク「緊急時の対応」ロールプレイをやってみたいの感想 今後どのように役立ててくのか	事業所	ヘルパー15名
2020.10.24	感染症について	事業所	ヘルパー14名
2020.11.28	訪問介護に求められる口腔ケア	事業所	ヘルパー18名
2020.12.26	認知症	事業所	ヘルパー16名
2021. 1. 16	虐待防止は利用者の思いを起点に	事業所	ヘルパー16名
2021. 2. 20	接遇	事業所	ヘルパー19名
2021. 3. 20	事故再発防止につながる	事業所	ヘルパー15名

<事業所内実技研修>

研修名	開催日	研修主体	参加職種
口腔ケアの介助	4月～5月 ※新型コロナウイルス対策で中止	事業所	中止
排泄の介助	6月～7月	事業所	ヘルパー21名
オムツ交換 (尿取りパット交換)	8月～9月	事業所	ヘルパー18名
着替えの介助	10月～11月	事業所	ヘルパー18名
介護職の介助	12月～1月	事業所	ヘルパー15名
掃除	2月～3月 ※新型コロナウイルス対策で中止	事業所	中止

<外部研修>

開催日	会議・研修名	研修主体	参加職種
2021. 1. 14	“脱ハンコ” ペーパーレス化、オンラインセミナー	(株)ロジック	サ責3名

④ 2020年度 訪問介護事業 利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非該当	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
事業対象者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要支援1	16	14	13	13	14	14	13	13	13	13	12	12	160
要支援2	12	12	12	12	12	12	10	11	11	11	12	11	138
要介護1	27	26	27	28	28	29	28	27	24	25	24	26	319
要介護2	17	15	18	18	17	16	17	17	15	15	14	13	192
要介護3	5	5	4	5	6	6	6	5	6	5	6	4	63
要介護4	3	2	1	1	1	1	1	1	2	3	3	2	21
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	84	78	78	80	81	81	78	77	74	75	74	71	931

⑤ 2020年度 障害福祉サービス 利用者人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅 介護	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	5	5	5	5	5	3	4	4	4	3	3	3	49
	区分3	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	15
	区分5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	区分6	5	4	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	58
重度 訪問	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
移動 支援	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	11
	区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※2020.7～ 行動援護、同行援護休止中

16. 介護予防センター石山・芸術の森

1. 事業活動報告

(1) 総合相談支援業務

ア 総合相談

地域から気軽に相談が挙がって来るような「顔の見える関係づくり」を進めてきたが、相談内容のほとんどが介護保険サービス・介護予防に関する相談が大半であったことから、地域に埋もれている介護予防が必要な住民の把握にはつながらなかった。

今後も継続して地域に一番身近な総合相談の窓口として介護予防センターの役割について周知・啓発を行っていききたい。

石山地区では目配り活動意見交換会時に地域の役員へ、聞き取り調査時に一部の町内会長へ、関係機関一覧表の説明を行い、また配布時に2団体の老人クラブ役員会と一部の商店街へ、気になることがあったら気兼ねなく相談してほしいことを直接伝えた。介護予防センターの役割や介護予防の必要性についても説明することができた。

芸術の森地区では、2019年度に引き続き老人クラブを中心に訪問を行い、介護予防センターの役割の紹介や体操・ふまねっと運動等、実践を交えながら理解を深めてもらう予定でいたが、コロナ禍での活動の制限により、老人クラブの訪問は自粛し、町内会の役員会・ケア会議で各老人クラブの状況確認や介護予防の必要性について講話を行うこととした。

イ 介護予防が必要な対象者の実態把握及び地域におけるネットワーク構築

地区地域ケア会議などを活用して、介護予防センターの役割や介護予防の必要性について周知を行った。また、見守り活動の状況把握等地域の取り組みの把握や地域とのネットワーク構築を図った。

石山地区では地区地域ケア会議の取り組みとして町内会長に聞き取り調査をした時に、部分的ではあるが今まで接点のなかった町内会と関りを持つことができた。また地域ケア会議の取り組みとして2団体の老人クラブの役員会と商店街へ関係機関一覧表の説明と配布を行い、介護予防が必要な対象者の実態把握及び今後のネットワーク構築の拡大に努めた。

芸術の森地区は、2020年度は地域の福祉活動を積極的に行っている町内会である石山東町内会へ単町訪問を行った。連携の強化をするため顔の見える関係づくりのきっかけとして「地区地域ケア会議」の準備会を兼ねて町内の見守り活動の実態把握を行った。2020年度は、地区地域ケア会議の開催に至らなかったため、引き続き「コロナ禍での介護予防や相談窓口の拡大」について、次年度に引継ぎ実施していくことを関係機関と決定した。

(2) 介護予防教室の実施及び介護予防普及啓発業務

ア 介護予防教室の実施

転倒予防教室においては、「緊急事態宣言」・「集中対策期間」の施策による相次いででの自粛要請により6月15日から11月6日、3月1日～30日の開催期間となった。

実施については、本庁からの通達の「再開の条件」に基づいた感染予防対策を行い、接触・飛沫予防、3密を避け、30分ごとの換気、参加者へのマスク着用、手指消毒、検温、備品の消毒など、できる限りの感染予防に努めた。実施内容としては、接触・密集・飛沫予防避け時間短縮での実施となった。その後、可能な教室ではふまねっと運動の再開をした。

また、地域に出向いての啓発活動の機会が限定的となったことから、「広報物の発行」による介護予防の普及啓発に重点を置き実施となった。地域住民の介護予防への意欲減退防止やつながりが絶えないための啓発に努めた。本庁からの情報提供のチラシの他、独自に介護予防の方法・感染予防行動についてチラシの作成を行った。

石山地区では教室中止中に転倒予防教室登録者に向けて、こちらで返信用便箋を作成して返信用封筒を同封し、任意にて近況報告や家で行っている体操などを記入して返信する交流を試みた。返信率は54.36%で、お休み中の登録者の近況が少しでも知れる機会となった。また「おしゃべり通信体を温めよう！運動・ストレッチ習慣」を企画と作成・発送を行い、教室の参加ができない登録者へ体操と体操の効果についての啓発を行った。その後、おしゃべり通信はテーマを変えて3回発行した。

芸術の森地区では、地域全体に自粛ムードが強く過度な自粛や家族の意向からの不参加者が多く見られた。また、各老人クラブ訪問し介護予防の必要性の訴えや、定例会での運動の取り組みなどを行う予定であったが自粛による活動が中止中のためできなかった。

イ 講演会や相談会等の開催

石山地区では、高齢者目配り活動意見交換会で機会を頂き、体操とセットにして分かりやすく説明をするよう努めた。実際に「スマイル体操は良かった。体が固まっていたので、歳をとったなとつくづく思った。」とのアンケートがあった。他には2団体の老人クラブの役員会にて介護予防の説明を行った。

過度な自粛による高齢者に及ぼす影響や介護予防の必要性について資料を作成し、区地域ケア推進会議で講話（芸術の森地区地域ケア会議でも行う予定でもあったが未実施）を実施した。老人クラブ訪問の際、介護予防の必要性について話をした。

(3) 地域介護予防活動支援業務

ア 介護予防に資する多様な地域活動組織の育成及び支援

2020年度は、南老人福祉センターと南区の介護予防センター5センターとの共催による、自主活動実施者又は、「運動サポーター養成講座」の卒業生を対象としたフォローアップ研修（1クール3回の研修を2クール）を実施。また、新規で自主活動を検討している方を対象にした南区の介護予防センター5センター共催「運動サポーター養成講座」の企画と実施をした。

石山地区では、フォローアップ研修に2人、運動サポーター養成講座に1名の参加。チラシ配布先の協力については関係機関、まちづくりセンター、福まち運営委員、民間のフィットネスクラブを得た。

芸術の森地区では、フォローアップ研修に4人、運動サポーター養成講座に1名の参加者があった。例年参加募集のチラシを町内回覧で行ってきたが、地域からの反応がないことから関係機関、まちづくりセンター、老人クラブ、南老人福祉センター、単町訪問の際等、協力を得て参加者を募った。

イ 介護予防活動における高齢者の役割と活動の場づくりの支援

石山地区では、転倒予防教室で以前から参加者全員が各自で椅子の片づけを行っている。2020年度は参加者同士の気配りや心遣いも役割分担になることを伝えた。参加者同士での声掛けの他に参加者の靴を靴箱から玄関へ並べる、最後に手指消毒を風除室から玄関まで運ぶ、体操の披露等、椅子の片付けに加えて新たな活動を始める参加者の姿が増えた。

芸術の森地区では、介護予防活動の見える化を図り参加意欲の向上を図るため、「転倒予防教室参加記録帳」を作成し次年度からの実施を予定している。また、参加者に意識的に声掛けを行うことで、教室運営に積極的にかかわってもらい、社会から必要とされる存在であるための役割を担ってもらってきた。

(4) 専門職と連携した介護予防機能強化業務の実施

ア 自主活動を目指した介護予防教室の実施

2019年度「運動サポーター養成講座」の卒業生を中心に運動を主な活動とした自主サークルを石山地区は1か所、芸術の森地区は2か所立ち上げを検討していたが、実施機会が作れず進めることができなかった。

イ 既存団体等における介護予防活動の継続に向けた支援の実施

継続支援として、予防センターが主催の介護予防教室、2019年度立ち上げた運動サロン等に健康管理の意識向上を図るため保健師と連携し講話の実施を計画していたが、自粛要請による中断で実施できなかった。

石山地区では、石山地区の老人クラブ4団体のうち2団体の役員会へ訪問した。2020年度は介護予防についての説明までだったが、今回は老人クラブと相談しながら体操などの実技の紹介をして介護予防活動を支援していきたい。

芸術の森地区では、各老人クラブでの運動の取り入れを図るため訪問時に体操の実践、ふまねつと指導などを予定していた。自粛により訪問ができなかったことから次年度に実施を予定している。

(5) 地域ケア会議

石山地区は、地区全体の課題が分析しにくい点と近隣住民からの相談件数が減少している課題に着眼。地区全体の課題が分析しにくい点は町内会長への見守り活動の聞き取り調査を行い、近隣住民からの相談件数が減少している課題については住民への関係機関連絡先一覧の説明と配布を行った。その結果、聞き取り調査については全町内会での現状把握は地域も初めてとのことで町内会毎の課題が明らかになった。関係機関連絡先一覧の説明と配布については、地域住民へ関係機関の相談連絡先の周知と連携強化ができた。コロナ禍のため地域活動支援が難しい中、今まで関りがなかった商店街へネットワーク構築を広げられたことと地域団体等より地域住民の現状を聞くことができた。

芸術の森地区は、7月に「地区地域ケア会議」の準備会として石山東町内会へ単位町内会訪問を実施。地域福祉活動が積極的でありながら、コロナ禍で見守り活動の自粛、町内会イベントの中止と活動が滞っている実態のなか今後どのような見守り活動ができるのかについて検討をする予定であった。コロナ禍での地域住民の介護予防の促進を図るため関係機関と話し合いを持ち、閉じこもりがちな人とそうでない人に分けそれぞれにアプローチを掛けることで、地域の介護予防の促進を図る予定であったが最終的には関係機関との検討の結果、次年度に引き続き実施することとなった。

地域全体として自主運営での介護予防活動が少ない地域であることから、今後も「地区地域ケア会議」を活用して「集いの場」づくりのきっかけを行っていききたい。

(6) 地域貢献

法人の社会貢献の一環として、いしやま朝市の送迎やお茶の間懇談会を実施する予定だったが2020年度は中止した。しかし、石山まち協福祉部部員として地域の福祉活動を支援。高齢者目配り活動意見交換会にて企画と人員支援、次第作成、案内状作成と発送。生き生き健康教室にて企画と人員支援、南保健センターとの調整、次第作成、チラシ作成と町内会回覧を含む配布を行った。お楽しみゲームにて得点票及びチラシの作成と町内会回覧を含む配布を行った。

(7) 総括

事業運営に「介護予防強化業務」が加わっており、「地域住民が自ら福祉活動を実践するための支援」が重要視されている。予防センターの役割としても地域のリーダーの発掘・育成・集いの場づくりを求められることとなった。それを機に南区社会福祉協議会を中心に「石山地区福祉のまち推進センター」の活動を見直し、本来の役割を担う組織として、今まで予防センターが担ってきた地域イベントの企画運営を、地域住民自ら実施できるよう調整を行いたい。介護予防センターも今後は石山地区と適切な関わり方ができるよう、関係づくりを構築する。また、芸術の森地区は、今後も継続して単位町内会への訪問を継続し各々に関係づくりを構築する。元々予防センターとの関係性が薄いことから、地道に一步一步確実に前進するような活動を行っていききたい。

今後も新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域活動が制限される可能性があることから、電話、文章など通じて状況把握や課題整理、情報提供に努め、可能な限り取り組みが継続できるように柔軟に対応を行っていく。

2. 事業運営状況

(1) 職員の配置状況

職 種	人 数	備 考
センター長	1名	兼任、常勤
ケースワーカー	2名	専任、常勤

(2) 年間重点目標について

- ① 担当地域において、介護予防センターの存在意義や役割、また相談機関であることの周知を図っていく

老人クラブへ出向き、当センターの存在意義や役割など説明した石山地区では、今まで関りのなかった商店街に相談窓口一覧の配付を行い、地域の困りごとが広く集約できるようにした。今後も相談機関としての周知に努めていきたい。今後も相談機関との周知に努めていきたい。

- ② 事業参加者、地域関係者、関係機関等との関係構築に努める

事業参加者へ積極的にコミュニケーションを図り、介護予防の範囲に限らず相談しやすい存在になるよう掛けた。また各事業において地域関係者、関係機関とも連携し信頼関係を築くよう努めた。今後も地域活動の基盤を固めていきたい。

- ③ 転倒予防教室をはじめとする実施事業の維持、継続を図る

既存の介護予防教室では、一人ひとりが役割を担って教室の運営に関わることで、日常生活の充実を図るための支援を行っていくができた。

- ④ 関係機関、法人内部とも連携しながら事業を進める

「専門職と連携した介護予防機能強化業務」により、北海道リハビリテーション専門職協会との連携を行った。また他の南区介護予防センターと連携する機会が多かった。そして主に南区保健福祉部、南区第一地域包括支援センター、内容に応じて南区社会福祉協議会や生活支援コーディネーターとも連携を図った。法人内部については、居宅介護支援事業所とホームヘルプサービス事業所との連携により地域貢献と法人認知度向上に努めた。例年地域貢献の一環で地域事業部と連携を取り「お茶の間懇談会」を実施してきたが、感染予防の観点により中止となった。

- ⑤ 地域関係団体との連携を図りながら、地域での相談支援や事業実施を推進する

介護予防センター主催事業並びに地区組織・団体等との連携や支援の機会にて、介護予防の説明や具体的な取り組み方法の講話や実技、相談を行った。

- ⑥ 地域関係団体との連携を図りながら、地域での相談支援や事業実施を推進する

石山地区は地区地域ケア会議より、関係機関と共に町内会長への聞き取り調査や地域団体等へ関係機関連絡先一覧の説明と配布を行った。今まで関りのなかった町内会や商店街へネットワーク構築を広げることができた。芸術の森地区では、石山東町内会、常盤団地町内会、常盤一区町内会、真駒内駒岡町内会、駒岡団地町内会、滝野町内会と特に連携を図り、相談支援を行った。

- ⑦ 介護予防事業に関する知識、技術の向上に努め、事業実施に繋げる

各研修会や会議などで得たものを担当地区での事業実施に活用、または参考にして事業内容の充実化や地域貢献に繋げるよう今後も精進したい。

<年間業務状況>

関係機関との連携	
地域包括支援センター及び介護予防センター定例会	9回
HARP・南区介護予防センター会議	1回
南区介護予防センター連絡会議	11回
芸術の森地区連絡会議	8回
石山地区連絡会議	9回
南区自主活動サポート教室 第1・2期	6回
令和2年度第1回 地区地域ケア推進会議	1回
第3回運動サポーター養成講座	6回
南区自主活動化支援業務に係る会議	1回

地域支援	
7回出席	石山福まち推進センター運営委員会
5回実施	石山青樹町内会健康体操
7/14	石山東町内会福祉推進委員定例会 (地域ケア会議準備会)
8/27	石山地区地域ケア会議
10/5	石山地区高齢者目配り活動意見交換会
9/28	石山地区 生き生き健康教室
9/29	石山地区福祉のまち推進委員研修会

その他	
7/27	令和2年度福祉のまち推進センター活動者会議
6/23	第1回札幌市介護予防センター業務連絡会議
10/29	第2回札幌市介護予防センター業務連絡会議
10月 ～	石山町内会長へ高齢者見守り活動聞き取り調査 訪問での聞き取り：3町内会
11月	郵送での聞き取り：7町内会
3月	石山老人クラブ3団体、石山商店街4店舗へ 関係機関一覧表の説明と配布

(3) 法人の5つの視点に対する取り組み (該当項目のみ)

① 利用者視点

的確な情報提供ができるように利用者の情報収集に意識を置き、できるだけ本人の立場を想像しながら業務を遂行した。

② 財務視点

無駄を省き、経費削減に努めながら運営した。

③ 地域貢献の推進

担当地域での行事や町内会の催し等にて、介護予防の枠に留まらず法人の一員という自覚を持って協力や支援を行った。

④ ガバナンス体制の強化

書類提出の期日を守り安定した業務ができた。日程調整や書類の確認作業が強化できた。

3. 事業実績

(1) 相談事業

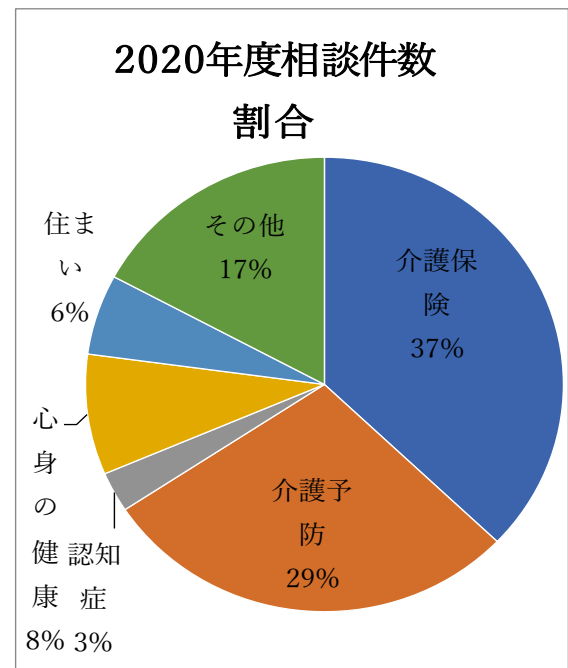
<相談経路>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
													2020年度	2020年度
電話	0件	0件	4件	5件	5件	2件	1件	0件	1件	1件	3件	1件	23件	24件
訪問	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
面接	0件	0件	0件	1件	2件	2件	0件	0件	0件	0件	1件	1件	7件	5件
計	0件	0件	4件	6件	7件	4件	1件	0件	1件	1件	4件	2件	30件	29件

※「面接」は、「来所」「事業実施時」「その他」を包含する。

<相談種別・割合>

相談内容内訳	件数		2020年度
	2020年度	2019年度	割合
介護保険制度	13件	13件	37%
介護予防	10件	8件	29%
保健福祉サービス	3件	0件	9%
権利擁護	0件	0件	0%
消費者被害について	0件	0件	0%
認知症について	1件	4件	3%
高齢者虐待について	0件	0件	0%
心身の健康について	3件	1件	8%
住まいについて	2件	0件	6%
その他	3件	4件	8%
計	35件	30件	100%



(重複あり)

(2) 介護予防普及・啓発事業

<転倒予防体操教室の開催>

表ア) 実施回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
芸術の森会館	0	0	1	2	2	2	2	1	0	0	0	2	12
石山会館	0	0	1	2	2	2	2	0	0	0	0	2	11
アクロスプラザ	0	0	2	4	3	4	5	1	0	0	0	4	23
合計	0	0	4	8	7	8	9	2	0	0	0	8	46

表イ) 参加者のべ数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
芸術の森会館	0	0	7	7	6	6	12	5	0	0	0	10	53
石山会館	0	0	17	33	35	40	46	0	0	0	0	31	202
アクロスプラザ	0	0	22	42	21	36	51	9	0	0	0	60	241
合計	0	0	46	82	62	82	109	14	0	0	0	101	496

<広報物配付実績>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配付	0	0	49	164	30	458	258	18	0	2	0	338	1,317
郵送	11	149	80	0	3	138	3	0	227	6	376	74	1,067
回覧	0	0	0	600	—	932	332	0	600	0	0	0	2464
合計	11	149	129	764	33	1528	593	18	827	8	376	412	4,848

